

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-148065

(P2012-148065A)

(43) 公開日 平成24年8月9日(2012.8.9)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 B 3/10 (2006.01)	A 4 7 B 3/10 Z	2 H 1 0 5
A 4 5 C 9/00 (2006.01)	A 4 5 C 9/00 N	3 B 0 4 5
A 4 5 C 13/00 (2006.01)	A 4 5 C 13/00 S	3 B 0 5 3
A 4 7 B 3/12 (2006.01)	A 4 7 B 3/10 A	
G 0 3 B 17/56 (2006.01)	A 4 7 B 3/12 Z	
審査請求 有 請求項の数 6 O L (全 43 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号 特願2011-276984 (P2011-276984)
 (22) 出願日 平成23年12月19日 (2011.12.19)
 (11) 特許番号 特許第4977800号 (P4977800)
 (45) 特許公報発行日 平成24年7月18日 (2012.7.18)
 (31) 優先権主張番号 特願2010-294604 (P2010-294604)
 (32) 優先日 平成22年12月29日 (2010.12.29)
 (33) 優先権主張国 日本国 (JP)

(71) 出願人 511004069
 齋藤 潔
 山形県上山市御井戸丁1-11-13
 (74) 代理人 100082670
 弁理士 西脇 民雄
 (72) 発明者 齋藤 潔
 山形県上山市御井戸丁1-11-13
 Fターム(参考) 2H105 AA18 DD01
 3B045 AA02 CE07 CE09 GD03 LA10
 3B053 KA01 LA01

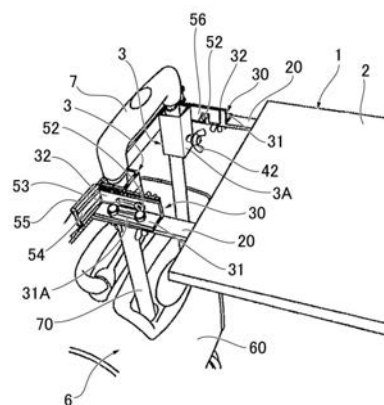
(54) 【発明の名称】 携帯用載置台とキャリーバッグ

(57) 【要約】

【課題】 小型軽量化を図ることのできる携帯用載置台と、この携帯用載置台を用いたキャリーバッグを提供する。

【解決手段】 キャリーバッグ6の支柱70または携帯物を着脱可能に取り付ける台座に着脱可能に装着する装着金具3と、この装着金具3に着脱可能に取り付ける載置体1とを備え、この載置体1の載置板2の上に物を載せるようにしたものである。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可搬体の支柱に着脱可能に装着する装着体と、この装着体に着脱可能に取り付ける載置体とを備え、この載置体の上に物を載せるようにしたことを特徴とする携帯用載置台。

【請求項 2】

前記装着体は、キャリーバッグのハンドル用の一对の支柱に装着される一对の筒部材であり、

前記載置体は、前記一对の筒部材に着脱可能に装着される一对のアームと、この一对のアームに取り付けられた載置板とを有することを特徴とする請求項 1 に記載の携帯用載置台。

【請求項 3】

前記一对の筒部材は上下動可能に装着されることを特徴とする請求項 2 に記載の携帯用載置台。

【請求項 4】

前記載置板は、前記一对のアームに着脱可能に取り付けられることを特徴とする請求項 2 または請求項 3 に記載の携帯用載置台。

【請求項 5】

前記一对のアームは、アームの長手方向と直交する方向に突出した係止片を有し、この係止片を前記筒部材と支柱との間に挿入することによって前記一对のアームを装着することを特徴とする請求項 4 に記載の携帯用載置台。

【請求項 6】

前記一对の筒部材は、キャリーバッグの背面側の方向へ延びたオフセット杆を有するとともに連結板に連結され、

前記一对のアームは、一对の筒部材のオフセット杆に着脱可能に且つ回動可能に装着され、

前記連結板の両端部は、前記一对の筒部材から外方へ突出し、

前記載置板及び一对のアームをオフセット杆に対して回動させることにより後方側へ移動させて、該一对のアームを前記連結板の両端部に当接させ、該一对のアームの回動支点と前記連結板の両端部とで前記載置板をほぼ水平状態に支持するようにしたことを特徴とする請求項 4 に記載の携帯用載置台。

【請求項 7】

前記一对のアームを前記一对のオフセット杆の長手方向に沿ってスライド移動可能にし、

前記連結板の両端部にバンパーを設けたことを特徴とする請求項 6 に記載の携帯用載置台。

【請求項 8】

前記載置板の一端に補助載置板が着脱可能に取り付けられることを特徴とする請求項 2 ないし請求項 7 のいずれか 1 つに記載の携帯用載置台。

【請求項 9】

前記補助載置板の下面に折り畳み式の脚部を設けたことを特徴とする請求項 8 に記載の携帯用載置台。

【請求項 10】

請求項 2 ないし請求項 9 のいずれか 1 つに記載の携帯用載置台を備えたことを特徴とするキャリーバック。

【請求項 11】

前記装着体は、三脚の支柱の台座に装着される受台であり、

前記載置体は、前記受台に着脱可能に装着される載置板であることを特徴とする請求項 1 に記載の携帯用載置台。

【請求項 12】

前記受台は、前記台座に着脱可能に載置される底板と、この底板の上面に設けた所定の

10

20

30

40

50

高さを有する環状の枠体と、この枠体の上面に設けた面ファスナーとを有し、

前記載置板の下面に面ファスナーを設けて、該載置板を前記枠体の上面に着脱可能に装着することを特徴とする請求項 1 1 に記載の携帯用載置台。

【請求項 1 3】

前記載置板を支持する補助支持機構を前記三脚に設けたことを特徴とする請求項 1 1 または請求項 1 2 に記載の携帯用載置台。

【請求項 1 4】

前記補助支持機構は、前記三脚の支柱に着脱可能に設けられ且つ水平方向に延びたアームと、このアームの先端部に着脱可能に立設された支持部材と、この支持部材の上部に設けられるとともに水平方向に延びて前記載置板の下面に当接する当接部材とを有することを特徴とする請求項 1 3 に記載の携帯用載置台。

10

【請求項 1 5】

前記装着体は、三脚の支柱の台座に装着される受台であり、

前記載置体は、前記受台に着脱可能に装着される保持枠体であり、

この保持枠体は、新聞を広げた状態で保持することを特徴とする請求項 1 に記載の携帯用載置台。

【請求項 1 6】

前記受台は、前記台座に着脱可能に載置される底板と、この底板の上面に設けた所定の高さを有する環状の枠体と、この枠体の上面に設けた面ファスナーとを有し、

前記保持枠体は、前記枠体の上面の面ファスナーに着脱可能に接続される枠取付板と、この枠取付板に着脱可能に取り付けられるとともに新聞を保持するための複数の保持枠とを有していることを特徴とする請求項 1 5 に記載の携帯用載置台。

20

【請求項 1 7】

前記複数の保持枠の 1 つは、前記枠取付板の中央位置に取り付けられ且つ縦方向に延びた縦保持枠であり、他の保持枠は横方向に延びた横保持枠であり、

前記縦保持枠に新聞を広げた状態で挟持する挟持部材を設け、

前記縦保持枠の両側にある前記横保持枠上にシートを敷き、

このシート上に新聞紙を広げた状態で載置し、この新聞を前記挟持部材で挟持することを特徴とする請求項 1 6 に記載の携帯用載置台。

【発明の詳細な説明】

30

【技術分野】

【0001】

この発明は、組立式の分解可能な携帯用載置台とキャリーバッグとに関する。

【背景技術】

【0002】

従来から、バーベキュー用の折畳式の携帯テーブルが知られている（特許文献 1 参照）。

【0003】

かかる携帯テーブルは、離間可能にスライド移動可能に設けられた 2 枚の卓板と、この卓板のそれぞれの下面に設けた折り畳み式の展開可能な脚部とを備え、2 枚の卓板を離間させるとともに脚部を展開させて卓板を脚部で保持させ、2 枚の卓板間にコンロを載せられるようにしたものである。

40

【0004】

運搬の際には、離間した卓板をスライド移動させて互いに接近させるとともに脚部を折り畳み、2 枚の卓板の下面がお互いに対向するように折り畳むものである。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献 1】特開 2003-199629 号公報

【発明の概要】

50

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、このような携帯テーブルにあっては、携帯用とはいえど大きく持ち運びに不便であり、しかも2枚の卓板に折り畳み式の展開可能な脚部をそれぞれ設けてあるため、重量が大きくなってしまいうという問題があった。

【0007】

この発明の目的は、軽量化を図ることのできる携帯用載置台と、この携帯用載置台を用いたキャリーバッグを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

請求項1の発明は、可搬体の支柱に着脱可能に装着する装着体と、この装着体に着脱可能に取り付ける載置体とを備え、この載置体の上に物を載せるようにしたことを特徴とする。

【発明の効果】

【0009】

この発明によれば、軽量化を図ることができる携帯用載置台とキャリーバックを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】この発明に係る携帯用載置台を示した斜視図である。

【図2】図1に示す携帯用載置台を適用するキャリーバッグを示した斜視図である。

【図3】携帯用載置台を取り付けたキャリーバッグを示した斜視図である。

【図4】携帯用載置台の使用状態を示した斜視図である。

【図5】載置板の回動方向を示す説明図である。

【図6】載置板のスライド移動方向と回動方向を示す説明図である。

【図7】載置板の使用状態を示した説明図である。

【図8】載置板をハンドルを越えて回動移動させる状態を示した説明図である。

【図9】(A)は連結板に取り付けられた筒部材を示した正面図、(B)はその平面図、(C)はその側面図である。

【図10】図9(A)の連結板と筒部材を示した斜視図である。

【図11】載置体を示した斜視図である。

【図12】(A)は図11の平面図、(B)はその側面図である。

【図13】載置体を連結板の筒部材に装着した状態を示した斜視図である。

【図14】第2実施例の載置板を示した斜視図である。

【図15】主載置板に補助載置板を着脱可能に装着されることを示す説明図である。

【図16】補助載置板の装着の仕方を示す説明図である。

【図17】主載置板に補助載置板を装着した状態を示した説明図である。

【図18】主載置板の下面に取り付けた脚部を示した説明図である。

【図18A】第2実施例の他の例の別な例を示す説明図である。

【図19】第3実施例の携帯用載置台を示す斜視図である。

【図20】アームの取り付け方を示す説明図である。

【図21】載置板のアームへの固定の仕方を示した説明図である。

【図22】第3実施例の他の例のアームの取り付け方を示した説明図である。

【図23】第3実施例の他の例の一方のアームに載置板を取り付ける状態を示した説明図である。

【図24】第3実施例の他の例の他方のアームに載置板を取り付ける状態を示した説明図である。

【図25】第4実施例の筒部材と支柱を示した斜視図である。

【図26】第4実施例の装着金具を示した斜視図である。

【図27】図26の装着金具の支柱への取付方を示した斜視図である。

10

20

30

40

50

- 【図 2 7 (A)】他の例の装着部材を示した斜視図である。
- 【図 2 7 (B)】図 2 7 (A) に示す装着部材の平面図である。
- 【図 2 7 (C)】載置板の正面図である。
- 【図 2 7 (D)】載置板の平面図である。
- 【図 2 8】第 5 実施例の携帯用載置台を示した斜視図である。
- 【図 2 9】図 2 8 に示す携帯用載置台の主要部を示す平面図である。
- 【図 3 0】図 2 9 に示す携帯用載置台の主要部の側面図である。
- 【図 3 1】図 2 8 に示す携帯用載置台の受台を示した平面図である。
- 【図 3 2】図 3 1 に示す受台の断面図である。
- 【図 3 3】補助支持機構の支柱部材と当接板と面ファスナーとを示した正面図である。 10
- 【図 3 4】2 つの携帯用載置台 5 0 0 を繋ぎ足した状態を示す説明図である。
- 【図 3 5】図 3 4 の携帯用載置台の載置板を示した平面図である。
- 【図 3 6】図 2 8 に示す載置板に他の載置板を接続した状態を示した説明図である。
- 【図 3 7】第 6 実施例の携帯用載置台を示した側面図である。
- 【図 3 8】図 3 7 に示す携帯用載置台の主要部を示した平面図である。
- 【図 3 9】第 6 実施例の携帯用載置台に新聞を載せて押さえ棒で押さえた状態を示した説明図である。
- 【図 3 9 A】押さえ棒の先端部が係止部材に係止される状態を示した断面図である。
- 【図 4 0】押さえ棒の先端部が係止部材に係止される状態を示した斜視図である。
- 【発明を実施するための形態】 20
- 【0 0 1 1】

以下、この発明に係る携帯用載置台とキャリーバッグの実施の形態である実施例を図面に基づいて説明する。

〔第 1 実施例〕

〔携帯用載置台〕

図 1 に示す携帯用載置台 1 0 は、後述する可搬体であるキャリーバッグ 6 の一对の支柱 7 0, 7 0 (図 2 参照) に着脱可能に装着される一对の装着体である装着金具 3, 3 と、この装着金具 3, 3 に着脱可能に装着される載置体 1 とを備えている。

〔キャリーバッグ〕

キャリーバッグ 6 は、図 2 に示すように、バッグ本体 6 0 と、このバッグ本体 6 0 の背面側に設けられた伸縮可能な一对の支柱 7 0, 7 0 とを有し、支柱 7 0, 7 0 の上部にはハンドル 7 が図示しないネジにより固定されている。また、バッグ本体 6 0 の底部には 2 つまたは 4 つのキャスター 6 1 (図 2 において 2 つのみ図示) が取り付けられている。 30

〔装着金具〕

装着金具 3 は、図 9 及び図 1 0 に示すように、支柱 7 0 (図 2 参照) に上下動可能に装着される断面 4 角形の筒部材 3 A と、筒部材 3 A に固定されたオフセット杆 5 0 とを有している。オフセット杆 5 0 は筒部材 3 A の軸線方向と直交する方向であるキャリーバッグ 6 の背面側の方向へ延びており、オフセット杆 5 0 には長孔 5 3 が形成されている。

【0 0 1 2】

装着金具 3 と装着金具 3 は長尺状の連結板 5 4 により連結され、連結板 5 4 の両端部が筒部材 3 A, 3 A より外方へ突出しており、その両端部に例えばゴム製のバンパー 5 5 が図 1 に示すように装着されている。 40

【0 0 1 3】

筒部材 3 A の後壁部 3 a には、雌ネジを形成したネジ孔 3 b (図示せず) が形成され、このネジ孔 3 b に蝶ネジ 4 2 が螺合されている。蝶ネジ 4 2 の軸部 4 2 A の先端部には筒部材 3 A 内に配置された当接板 4 1 が固定され、蝶ネジ 4 2 の回動操作により当接板 4 1 が蝶ネジ 4 2 とともに図 6 において左右に移動するようになっている。当接板 4 1 の左方向の移動によって、当接板 4 1 と筒部材 3 A の前壁部 3 c との間に支柱 7 0 を挟み込んで筒部材 3 A を支柱 7 0 に固定するものである。蝶ネジ 4 2 を緩めると、当接板 4 1 が右方向に移動することにより筒部材 3 A が支柱 7 0 に沿って上下動可能となる。 50

〔載置体〕

載置体 1 は、図 1 1 及び図 1 2 に示すように、物を載せる長方形の載置板 2 と、この載置板 2 の一端から突出した一対のアーム 2 0、2 0 と、このアーム 2 0、2 0 の先端部に固定された断面 L 字形のブラケット 3 0 とを有している。アーム 2 0 には長手方向に沿って長孔 2 3 が形成されている。なお、載置板 2 は長方形であるがどのような形状であってもよい。

【0014】

ブラケット 3 0 は、アーム 2 0 に固定されたベース板 3 1 と、このベース板 3 1 の一側部から起立された起立片 3 2 とを有している。ベース板 3 1 にはアーム 2 0 の長手方向に沿って長孔 3 1 A（図 4 参照）が形成され、起立片 3 2 にアーム 2 0 の長手方向に沿って長孔 3 2 A が形成されている。

10

【0015】

アーム 2 0 の長孔 2 3 と、ブラケット 3 0 のベース板 3 1 の長孔 3 1 A にはネジ 2 4、2 4 が貫挿され、このネジ 2 4、2 4 によってブラケット 3 0 のベース板 3 1 がアーム 2 0 に固定されている。このネジ 2 4 の蝶ナット 2 5 を緩めることによってアーム 2 0 の長手方向に対するブラケット 3 0 の取り付け位置を調整することができる。

【0016】

ブラケット 3 0 の起立片 3 2 の長孔 3 2 A と、筒部材 3 A のオフセット杆 5 0 の長孔 5 3 とにはネジ 5 2 が貫挿されて、図 1 及び図 1 3 に示すように、載置体 1 がオフセット杆 5 0 に取り付けられている。

20

【0017】

載置体 1 は、ネジ 5 2 に螺合している蝶ナット 5 6 を緩めることにより、図 6 に示すようにネジ 5 2 を中心にして上下方向に回動可能となるとともに、ブラケット 3 0 の起立片 3 2 の長孔 3 2 A に沿ってスライド移動可能（図 6 において上下方向の移動）となる。また、載置体 1 はオフセット杆 5 0 の長孔 5 3 に沿って移動可能となる。

【0018】

すなわち、載置体 1 は、オフセット杆 5 0 の長孔 5 3 の長さ、ブラケット 3 0 の起立片 3 2 の長孔 3 2 A の長さを足した長さとはほぼ同じ長さだけオフセット杆 5 0 の長手方向に沿ってスライド移動可能となる。

〔携帯用載置台の組み付け〕

30

次に、上記のように構成される携帯用載置台 1 0 の組み付けについて説明する。

【0019】

先ず、図 2 に示す支柱 7 0、7 0 に取り付けられているハンドル 7 を図示しないネジを外すことにより取り外す。

【0020】

次に、図 1 及び図 1 3 に示すように、載置体 1 を取り付けしたオフセット杆 5 0、5 0 の筒部材 3 A、3 A の蝶ネジ 4 2、4 2 を緩めておき、この筒部材 3 A、3 A の中に図 3 に示すように支柱 7 0、7 0 を通し、この後、支柱 7 0、7 0 の上部にハンドル 7 をネジにより取り付ける。

【0021】

40

携帯用載置台 1 0 を使用する場合には、図 4 及び図 5 に示すように、筒部材 3 A、3 A を支柱 7 0、7 0 の上部に移動させ、ネジ 5 2、5 2 の蝶ナット 5 6、5 6 を緩めてオフセット杆 5 0、5 0 に対して載置板 2 とともにアーム 2 0 を図 4 において右方向へスライド移動させる。そして、載置板 2 を図 6 に示すネジ 5 2 を中心にして図 8 に示すように反時計回りに回動させていくと、図 7 に示すように載置板 2 のアーム 2 0、2 0 が連結板 5 4 のバンパー 5 5 に当接される。

【0022】

つまり、載置板 2 を図 4 に示す位置から約 180 度反時計回りに回動させると、載置板 2 のアーム 2 0、2 0 が連結板 5 4 のバンパー 5 5 に当接してその回動は停止され、図 7 に示すように載置板 2 はほぼ水平状態に保持される。バンパー 5 5 によりその当接時の衝

50

撃は吸収されることになる。

【0023】

筒部材3A, 3Aを支柱70, 70に沿って移動させることにより、載置板2を所望の高さ位置へ移動させるとともに、載置板2を左右方向（図7において）にスライド移動させて載置板2の支柱70から左方向へ突出する長さを調整する。これら調整が終了したら、蝶ネジ42, 42を締めて筒部材3A, 3Aを支柱70, 70に固定し、蝶ナット56, 56を締めて載置板2を固定する。

【0024】

載置板2はほぼ水平状態に固定されるので、出張や旅先の途中、駅や公園のベンチなどに腰を掛けてパソコンを載置板2の上に置いて仕事をすることができ、また、弁当などを載置板2の上において食事をとることができ、膝の上にパソコンや弁当を置かなくて済むので、仕事や食事などが大変し易いものとなる。

【0025】

また、携帯用載置台10は、キャリーバッグ6の支柱70, 70に載置板2を取り付けて使用するものであるから、載置板2を支持する専用の支柱は不要であり、このため、軽量化を図ることができる。

【0026】

携帯用載置台10を使用しないとき、図3に示すように、キャリーバッグ6に取り付けたままであってもよく、載置板2のみを取り外してバッグ本体60に収納してもよく、あるいは、携帯用載置台10を全て取り外してバッグ本体60に収納してもよい。いずれの場合であっても、上記のように、携帯用載置台10の組み付けは簡単に行うことができ、しかも、筒部材3A, ブラケット30, 載置板2のアーム20などの取り付けはネジ42, 24, 52によって取り付けているので携帯用載置台10の分解も簡単に行うことができる。

【0027】

なお、キャリーバッグ6は、旅行カバンやスーツケースやトロリーケースなどであるが、一对の支柱を備えたものであればどのようなバッグであってもよく、また一对の支柱を備えて持ち運びができれば、バッグ以外の物（可搬体）であってもよい。

【0028】

上記実施例では、ブラケット30を介して載置板2のアーム20とオフセット杆50とを接続しているが、アーム20にブラケット30の起立片32を一体形成すれば、ブラケット30は不要である。

〔第2実施例〕

図14は第2実施例の携帯用載置台の載置板110を示す。この載置板110は、主載置板（載置板）111の両側方に補助載置板112, 113を着脱可能に装着したものである。また、補助載置板112, 113は主載置板111の上面に載るように蝶番120, 130によって矢印方向に折り畳めるようになっている。

【0029】

補助載置板112の幅は広く、補助載置板113の幅は補助載置板112の幅より狭く設定されている。

【0030】

これは、主載置板111の上にパソコンを置いて仕事などをする場合、主載置板111の左側（図14において右側）に補助載置板112が位置し、主載置板111の右側（図14において左側）に補助載置板113が位置するので、書類などを置く補助載置板112の幅を広くし、筆記具などを置く補助載置板113の幅を狭くしたものである。

【0031】

蝶番120は、図15に示すように、主載置板111に取り付けられた蝶番プレート121と、補助載置板112に取り付けられた蝶番プレート122とを備え、蝶番プレート121は円筒状の軸受部121Aを有している。

【0032】

10

20

30

40

50

蝶番プレート122は、円筒状の一对の軸受部122A,122Bと、軸受部122A内に挿入されている軸123とを有し、軸123はレバー124の操作によって軸受部122Aから突出して軸受部122B内へ進入するようになっている。軸受部122A,122B間の離間距離は蝶番プレート121の軸受部121Aの長さとはほぼ同一となっている。

【0033】

補助載置板112の装着は、蝶番プレート122の軸受部122A,122B間に主載置板111の蝶番プレート121の軸受部121Aを図16に示すように入れ、蝶番プレート122のレバー124を矢印P1方向に操作して、軸123を蝶番プレート121の軸受部121A内と蝶番プレート122の軸受部122B内へ挿入させる。これにより、補助載置板112は主載置板111に装着されることになる。補助載置板112の取り外しは、上記と逆方向にレバー124を操作すればよい。

10

【0034】

蝶番130は、蝶番120と同じ構成であり、補助載置板113の主載置板111に対する着脱も補助載置板112と同じなのでその説明は省略する。

[他の例]

図18は第2実施例の携帯用載置台の載置板の他の例を示す。この載置板の他の例は、主載置板111の下面111Bに伸縮可能な且つ折り畳み式の脚部150を設けたものである。この脚部150により主載置板111は安定し、この上に重いものを載せることが可能となる。なお、図18においてアーム20は省略してある。

20

【0035】

また、図18Aに示すように、主載置板111の前端に補助載置板115を着脱可能に装着できるようにし、この補助載置板115または主載置板111の下面に折り畳み式の脚部150を設けてもよい。

【0036】

主載置板111の前端（一端）と両側の両端との少なくとも1つの一端に補助載置板を着脱可能に取り付けてもよく、また、いずれかの補助載置板の下面に折り畳み式の脚部150を設けてもよい。

[第3実施例]

図19は第3実施例の携帯用載置台200を示す。携帯用載置台200は、筒部材3A,3Aに着脱可能に取り付けられる一对のアーム220,220と、このアーム220,220に載置される載置板202と、この載置板202をアーム220,220に固定するための面ファスナー249,249などとを備えている。

30

【0037】

アーム220の先端には、図20に示すように上下に延びた係止片21が形成され、この係止片21を筒部材（装着体）3Aと支柱70との間に挿入してアーム220を取り付けるようになっている。アーム220の上面及び下面には面ファスナー49が貼り付けられている。なお、図19において、アーム220の上面の面ファスナーは説明の便宜上省略してある。

【0038】

載置板202の下面202A（図19において上面）には、面ファスナー250,250が取り付けられており、この載置板202を図21に示すように下面202Aを下側にしてアーム220,220の上に載せ、このアーム220,220を挟み込むようにして載置板202の面ファスナー250,250及びアーム220,220の面ファスナー49,49と面ファスナー249,249とを貼着させる。これにより、載置板202をアーム220,220に固定するものである。なお、アーム220,220の支柱70,70への固定は蝶ネジ42を締め付けることによって行う。

40

【0039】

この第3実施例によれば、ブラケット30やオフセット杆50が不要となるので、携帯用載置台200の構成は簡単なものとなり、その組み付けも簡単なものとなる。

50

[他の例]

図 2 2 ないし図 2 4 は第 3 実施例の携帯用載置台の他の例を示したものであり、この他の例では、支柱 7 0, 7 0 の前後に載置板 2 0 2, 2 0 2 を着脱可能に取り付けるようにしたものである。図 2 2 に示す 8 はアーム 2 2 0 の係止片 2 1 に設けたスベリ止め部材であり、必ずしも設ける必要はない。なお、アーム 2 2 0 の上面には面ファスナー 4 9 を設けているが、図 2 2, 2 3 では説明の便宜上図示していない。

【0040】

第 3 実施例および他の例では、アーム 2 2 0 に係止片 2 1 を設けているが、この係止片 2 1 を載置板 2 0 2 に設けて、載置板 2 0 2 を直接筒部材 3 A に装着するようにしてもよい。

10

[第 4 実施例]

図 2 5 ないし図 2 7 は第 4 実施例の携帯用載置台の装着金具 3 0 0 を示す。この第 4 実施例では、支柱 7 0 からハンドル 7 を取り外さなくても装着金具 3 0 0 を支柱 7 0 に装着できるようにしたものである。

【0041】

装着金具 3 0 0 は、支柱 7 0 の太さと同じ幅の切欠 3 3 0 a を有する筒部材 3 3 0 と、この筒部材 3 3 0 の外側に嵌合される筒部材 3 4 0 とを有している。

【0042】

筒部材 3 3 0 の下部にはフランジ 4 5 が形成され、フランジ 4 5 の側面には面ファスナー 3 4 3 が貼り付けられている。また、筒部材 3 3 0 の壁 3 3 0 B の内壁にはスベリ止め部材 8 が設けられている。

20

【0043】

筒部材 3 4 0 は、支柱 7 0 の太さと同じ幅の切欠 4 7 を有し、側壁 3 4 1 の外面に面ファスナー 3 4 2 が取り付けられている。

【0044】

装着金具 3 0 0 の支柱 7 0 への取り付けは、先ず、図 2 5 及び図 2 6 に示すように、筒部材 3 3 0 の切欠 3 3 0 a から支柱 7 0 を筒部材 3 3 0 内に入れ、蝶ネジ 4 2 を締め付けて支柱 7 0 の所定位置に固定する。

【0045】

この後、筒部材 3 4 0 の切欠 4 7 から支柱 7 0 を筒部材 3 4 0 内に入れるとともに、筒部材 3 4 0 を筒部材 3 3 0 の外側に嵌合させる。この嵌合に邪魔とならないように筒部材 3 4 0 の切欠 4 7 内に蝶ネジ 4 2 を入れる。そして、筒部材 3 4 0 の下端を筒部材 3 3 0 のフランジ 4 5 に当接させ、面ファスナー 3 4 9 を筒部材 3 4 0 の面ファスナー 3 4 2 に貼着させるとともにフランジ 4 5 に設けた面ファスナー 3 4 3 に貼着する。これにより、筒部材 3 4 0 を筒部材 3 3 0 に固定するものである。

30

【0046】

第 2 実施例ないし第 4 実施例も、キャリアバッグ 6 の支柱 7 0 を利用しているので、第 1 実施例と同様な効果を得ることができる。

【0047】

図 2 7 (A) 及び図 2 7 (B) は、他の例の装着部材 (装着体) 1 3 0 0 を示す。この装着部材 1 3 0 0 は、支柱 7 0 に着脱可能に装着する筒部材 1 3 3 0 を備え、この筒部材 1 3 3 0 は、断面がコ字状の本体 1 3 3 1 と、この本体 1 3 3 1 に開閉可能に軸支された開閉蓋 1 3 3 2 とを有する。この本体 1 3 3 1 と開閉蓋 1 3 3 2 とで筒穴 1 3 3 0 A を形成している。

40

【0048】

本体 1 3 3 1 の側壁部 1 3 3 1 A の上部には、膨出部 1 3 3 3 が一体形成され、この膨出部 1 3 3 3 には後述するアームが挿入される穴 1 3 3 3 A がバッグ本体 6 0 (図 2 参照) に対して前後方向に沿って形成されている。穴 1 3 3 3 A は膨出部 1 3 3 3 を貫通しているが、貫通していなくてもよい。

【0049】

50

また、側壁部 1 3 3 1 A に対向する本体 1 3 3 1 の側壁部 1 3 3 1 B にはネジ 1 3 0 1 が螺合され、ネジ 1 3 0 1 の先端部が筒部材 1 3 3 0 の筒穴 1 3 3 0 A 内に進出し、その先端部に当接板 1 0 4 1 が先端部に対して回転自在に装着されている。

【0050】

ネジ 1 3 0 1 のダイヤル 1 0 4 3 を回動操作することにより、当接板 1 0 4 1 が進退してこの当接板 1 0 4 1 と側壁部 1 3 3 1 A とで支柱 7 0 を挟持したり、この挟持を開放したりするようになっている。

【0051】

図 2 7 C 及び図 2 7 D に示す載置板 1 0 5 0 は、前後方向（図 2 7（D）において上下方向）に沿って形成された穴 1 0 5 1、1 0 5 1 を有し、この穴 1 0 5 1、1 0 5 1 にアーム 1 0 6 0、1 0 6 0 が挿入されるようになっている。また、アーム 1 0 6 0、1 0 6 0 をどちらからでも挿入できるように穴 1 0 5 1、1 0 5 1 は貫通しているが、貫通していなくてもよい。

〔組み付け〕

まず、装着部材 1 3 0 0 を図 2 7（B）に示すようにキャリーバッグ 6 の支柱 7 0、7 0（図 2 参照）にそれぞれ装着する。次に、各装着部材 1 3 0 0 の本体 1 3 3 1 の膨出部 1 3 3 3 の穴 1 3 3 3 A にアーム 1 0 6 0、1 0 6 0 の先端部をそれぞれ挿入して、アーム 1 0 6 0、1 0 6 0 を取り付け、このアーム 1 0 6 0、1 0 6 0 の後端部から図 2 7（D）に示すように載置板 1 0 5 0 の穴 1 0 5 1、1 0 5 1 に挿入して、載置板 1 0 5 0 をアーム 1 0 6 0、1 0 6 0 に取り付ける。

【0052】

このように、アーム 1 0 6 0 の先端部を本体 1 3 3 1 の膨出部 1 3 3 3 の穴 1 3 3 3 A に挿入し、このアーム 1 0 6 0 の後端部から載置板 1 0 5 0 の穴 1 0 5 1 に挿入していただくだけで、載置板 1 0 5 0 の取り付け作業は簡単に行え、しかも、取り外しは、アーム 1 0 6 0 を載置板 1 0 5 0 の穴 1 0 5 1 や膨出部 1 3 3 3 の穴 1 3 3 3 A から抜いていけばよいので、その取り外し作業も簡単に行える。

【0053】

また、この例によれば、面ファスナーも不要となるので、部品点数の少ない携帯用載置台を提供することができる。

〔第 5 実施例〕

図 2 8 は第 5 実施例の携帯用載置台 5 0 0 を示す。携帯用載置台 5 0 0 は、可搬体であるカメラ用の折り畳み式の三脚 5 0 1 の支柱 5 0 5 に設けた台座 5 0 2（図 3 0 参照）に着脱可能に取り付けられた装着体である受台 5 1 0 と、この受台 5 1 0 に着脱可能に装着される載置体である載置板 5 2 0、5 2 0 と、この載置板 5 2 0、5 2 0 を支持する補助支持機構 5 5 0 とを備えている。台座 5 0 2 には、通常の使用時ではカメラが着脱可能に装着される。

〔受台〕

受台 5 1 0 は、図 2 9 ないし図 3 2 に示すように、台座 5 0 2 に着脱自在に取り付けられる底板 5 1 1 と、この底板 5 1 1 の上に所定の高さを有する環状に形成された四角形状の枠部材 5 1 2 と、この枠部材 5 1 2 の上面に貼り付けた面ファスナー 5 1 3 とを有している。枠部材 5 1 2 は、必ずしも四角形状である必要はなく、環状に配置されるものであればどのような形状であってもよく、繋がっている必要もない。

【0054】

受台 5 1 0 の底板 5 1 1 の中心部にはネジ孔 5 1 1 a が形成され、このネジ孔 5 1 1 a に台座 5 0 2 のネジ（図示せず）を通し、このネジに蝶ナット 5 0 4 を螺合することにより、受台 5 1 0 が台座 5 0 2 に固定される。

【0055】

枠部材 5 1 2 の高さは、蝶ナット 5 0 4 の高さより高く設定され、載置板 5 2 0、5 2 0 が蝶ナット 5 0 4 と干渉しないように面ファスナー 5 1 3 上に載置できるようになっている。

〔補助支持機構〕

補助支持機構 550 は、三脚 501 の支柱 505 に取り付けられた筒体 551 に固定され且つ十字状に形成されるとともに水平方向に延びた 2 つのアーム 552, 553 と、このアーム 552, 553 の両端に立設された支柱部材 554 ~ 557 と、各支柱部材 554 ~ 557 の上部に設けられるとともに水平方向に延びた当接板 558 ~ 561 と、各当接板 558 ~ 561 の上面に貼り付けた面ファスナー 558 a ~ 561 a とを有している。

【0056】

アーム 552, 553 は、筒体 551 にネジ止めされており、このネジ(図示せず)により着脱可能となっている。各支柱部材 554 ~ 557 は、アーム 552, 553 に着脱可能にネジ止めされている。

【0057】

支柱部材 554 ~ 557 の上部には、図 33 に示すように水平方向に延びた接続部 554 A ~ 557 A が一体形成され、この接続部 554 A ~ 557 A に当接板 558 ~ 561 が着脱可能にネジ止めされている。ネジには蝶ナット(図示せず)が螺合され、ネジの取り外しがし易いようになっている。

【0058】

載置板 520, 520 の下面には面ファスナー(図示せず)が貼り付けられており、載置板 520, 520 を図 28 に示すように枠部材 512 及び補助支持機構 550 の当接板 558 ~ 561 上に載せることにより、その下面の面ファスナーと枠部材 512 の面ファスナー 513 及び当接板 558 ~ 561 の面ファスナー 558 a ~ 561 a とが貼着され、載置板 520, 520 が受台 510 の枠部材 512 及び補助支持機構 550 の当接板 558 ~ 561 に着脱可能に装着されることになる。

【0059】

載置板 520, 520 は、補助支持機構 550 の当接板 558 ~ 561 によって支持されるので、広いものであっても安定することになる。

【0060】

第 5 実施例の携帯用載置台 500 によれば、載置板 520, 520 を大きくすることができるので、大きなテーブルとして使用することができる。なお、載置板 520, 520 が小さい場合には補助支持機構 550 は不要である。

【0061】

載置板 520, 520 は、面ファスナーによって受台 510 に装着するので、載置板 520, 520 の組み付けや分解は簡単に行える。また、補助支持機構 550 も蝶ナットなどによって組み付けているので、その組み付けや分解を簡単に行える。

【0062】

また、図 34 に示すように、多数の携帯用載置台 500 (図 34 では説明の便宜上 2 つのみ示す) を繋ぎ足していけば大きなテーブルを作成することができる。この場合、図 35 に示すように、隣り合う載置板 520, 520 ' 同士を連結板 560 で連結することにより、載置板 520, 520 ' との間に段差が生じてしまうのを防止することができる。

【0063】

連結板 560 の上面には面ファスナー(図示せず)が貼り付けており、この連結板 560 の面ファスナーを載置板 520, 520 ' の下面の面ファスナーに貼着させることにより、載置板 520, 520 ' 同士を連結するものであるが、必ずしも連結板 560 で接続する必要はない。

【0064】

また、図 36 に示すように、載置板 520 の一側方に、下面に図 18 に示す折り畳み式の脚部 150 を設けた載置板 570 を着脱可能に接続できるようにしてもよい。この場合、例えば図 14 に示す蝶番 120 を用いて載置板 570 を着脱可能にする。また、補助支持機構 550 を省略してもよい。

【0065】

この第 5 実施例によれば、カメラの三脚を利用しているので、携帯用載置台 500 の軽

10

20

30

40

50

量化を図ることができる。

〔第 6 実施例〕

図 37 ないし図 39 は第 6 実施例の携帯用載置台 600 を示す。この携帯用載置台 600 は、新聞を広げた状態で載置できるようにしたものである。

【0066】

携帯用載置台 600 は、三脚 501 の台座 502 に着脱可能に設けた受台 510（図 32 参照）と、この受台 510 に着脱可能に装着され且つ新聞を保持する載置体である保持枠体 610 とを備えている。

【0067】

保持枠体 610 は、受台 510 の面ファスナー 513 に着脱可能に接続される枠取付板 611 と、この枠取付板 611 の両端側（図 38 において上下）に着脱可能に接続されるとともに左右に延びた横保持枠（保持枠）612、612 と、枠取付板 611 の中央部に着脱可能に接続されるとともに上下（図 38 において）に延びた縦保持枠（保持枠）613 と、縦保持枠 613 の上に着脱可能に接続されるとともに左右に延びた横保持枠 614 と、縦保持枠 613 の上面に設けられた断面コ字状のガイド部材 615 と、縦保持枠 613 の下部に枢支された押さえ棒（挟持部材）616 と、縦保持枠 613 の両側に取り付ける不織布からなるシート 617、617 などとを有している。

【0068】

枠取付板 611 の上面及び下面には面ファスナー 611A、611B が貼り付けられており、枠取付板 611 は、下面の面ファスナー 611B によって受台 510 に対して着脱可能となっている。

【0069】

横保持枠 612 は、上面に貼り付けた面ファスナー 612A により枠取付板 611 の下面の面ファスナー 611B に着脱可能に貼着されている。

【0070】

縦保持枠 613 は、下面に貼り付けた面ファスナー 613A（図示せず）により枠取付板 611 の上面の面ファスナー 611A に着脱可能に貼着されている。

【0071】

横保持枠 614 は、上面に貼り付けた面ファスナー 614A により縦保持枠 613 の下面の面ファスナー 613A に着脱可能に貼着されている。

【0072】

押さえ棒 616 は、ガイド部材 615 の凹部 615A 内に入るとともに、図 39A に示すように、その先端部 616a が縦保持枠 613 の上部に設けた係止部材 620 により係止されるようになっている。

〔使用方法〕

新聞を載置する場合には、予め縦保持枠 613 の両側にシート 617、617 を敷いておく。シート 617、617 は不織布なので、枠取付板 611 の面ファスナー 611A や横保持枠 612、614 の面ファスナー 612A、614A に着脱可能に貼着されることになる。

【0073】

また、三脚 501 の台座 502 を図 37 に示す水平軸 J 回りに回動させて、図 40 に示すように、枠取付板 611 を所望の角度に傾斜させ、押さえ棒 616 の先端部 616a を係止部材 620 から外して例えば図 40 の実線で示す位置へ移動させておく。

【0074】

そして、新聞紙 S をガイド部材 615 を跨ぐようにシート 617、617 の上に広げて置き（図 39 参照）、押さえ棒 616 を図 40 に示す位置から矢印方向へ移動させて、図 39 に示すようにガイド部材 615 の凹部 615A 内に新聞紙 S とともに入れて、押さえ棒 616 の先端部 616a を係止部材 620 に係止させる。これにより、新聞紙 S は押さえ棒 616 によって押さえられることになる。すなわち挟持されることになる。

【0075】

このように新聞台として使用することができ、また、台座５０２、枠取付板６１１、横保持枠６１２、６１４、ガイド部材６１５、シート６１７などは取り外しができるため、持ち運びがし易く、また、面ファスナーによって各部材を接続するものであるから、その組み立ても簡単に行うことができ、このため例えば公園などのベンチに腰掛けて新聞などを手にもたずに読むことができる。

【００７６】

第５、第６実施例では、三脚５０１はカメラ用の三脚であるが、台座を有する三脚であれば折り畳み式の三脚やその他のどのような三脚であってもよい。

【００７７】

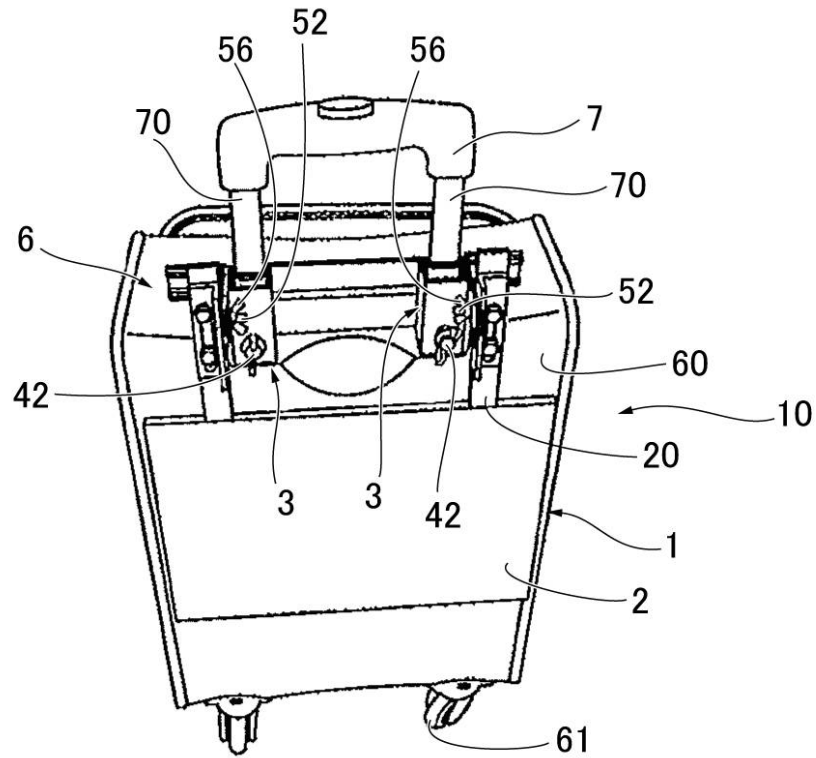
この発明は、上記実施例に限られるものではなく、特許請求の範囲の発明の要旨を逸脱しない限り、設計の変更や追加等は許容される。 10

【符号の説明】

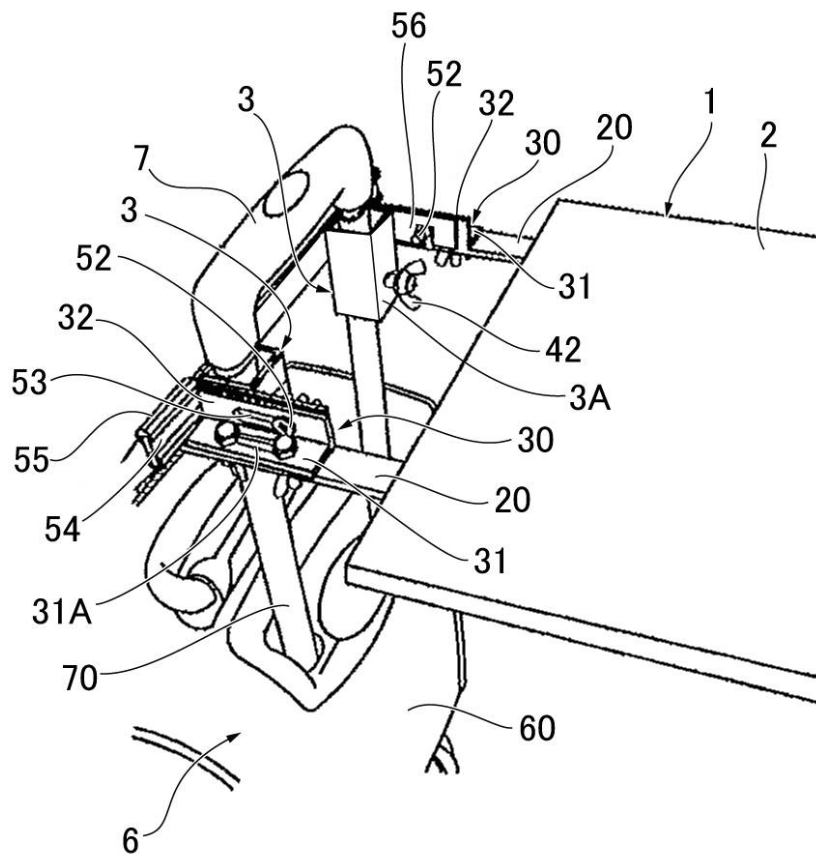
【００７８】

１	載置体
２	載置板
３	装着金具（装着体）
３Ａ	筒部材
１０	携帯用載置台
２０	アーム
７０	支柱
１１０	載置板
１１２	補助載置板
１１３	補助載置板
５０１	三脚
５０２	台座
５１０	受台
５２０	載置板
５５０	補助支持機構
６１０	保持枠体

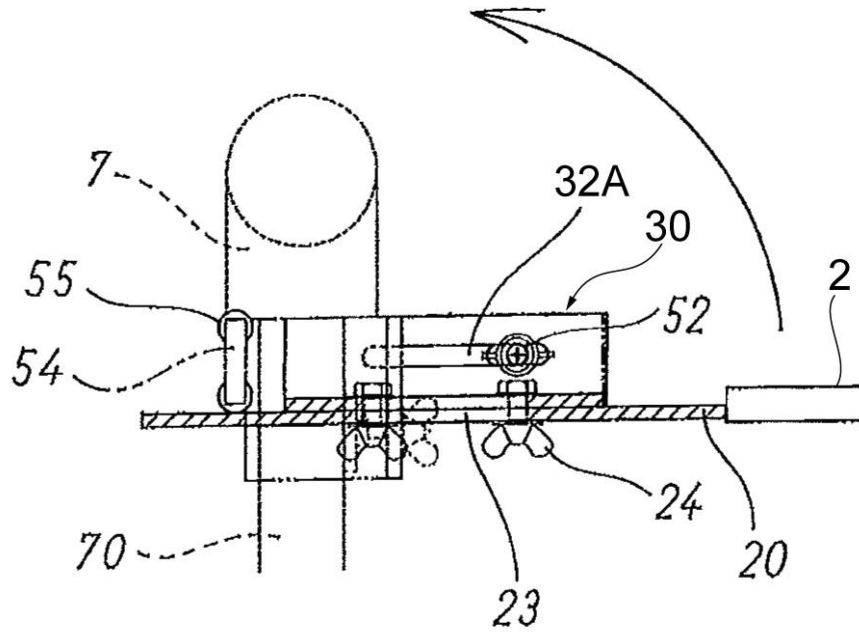
【図 3】



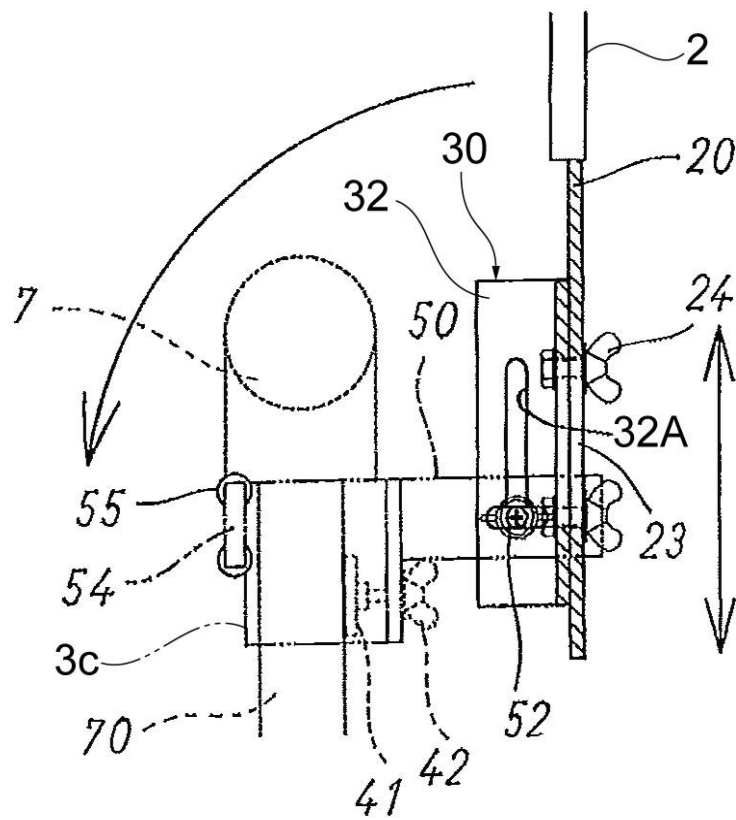
【図 4】



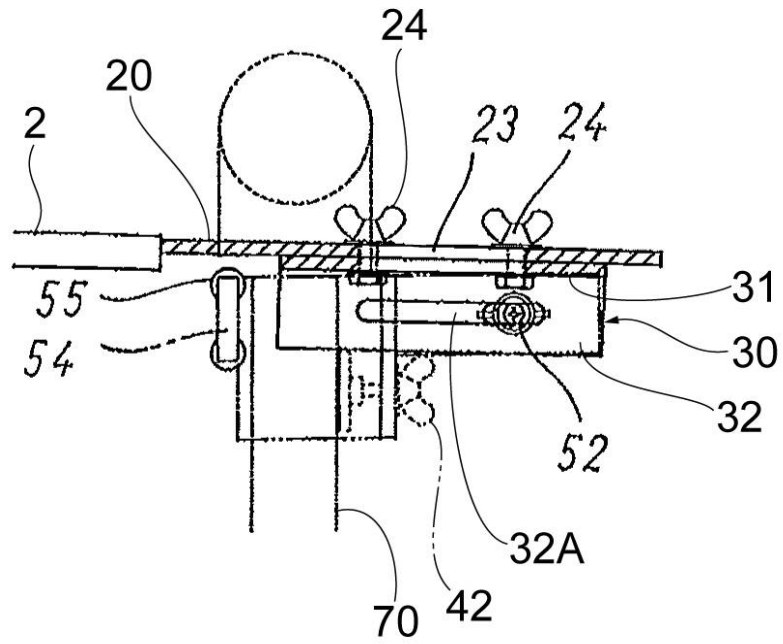
【図 5】



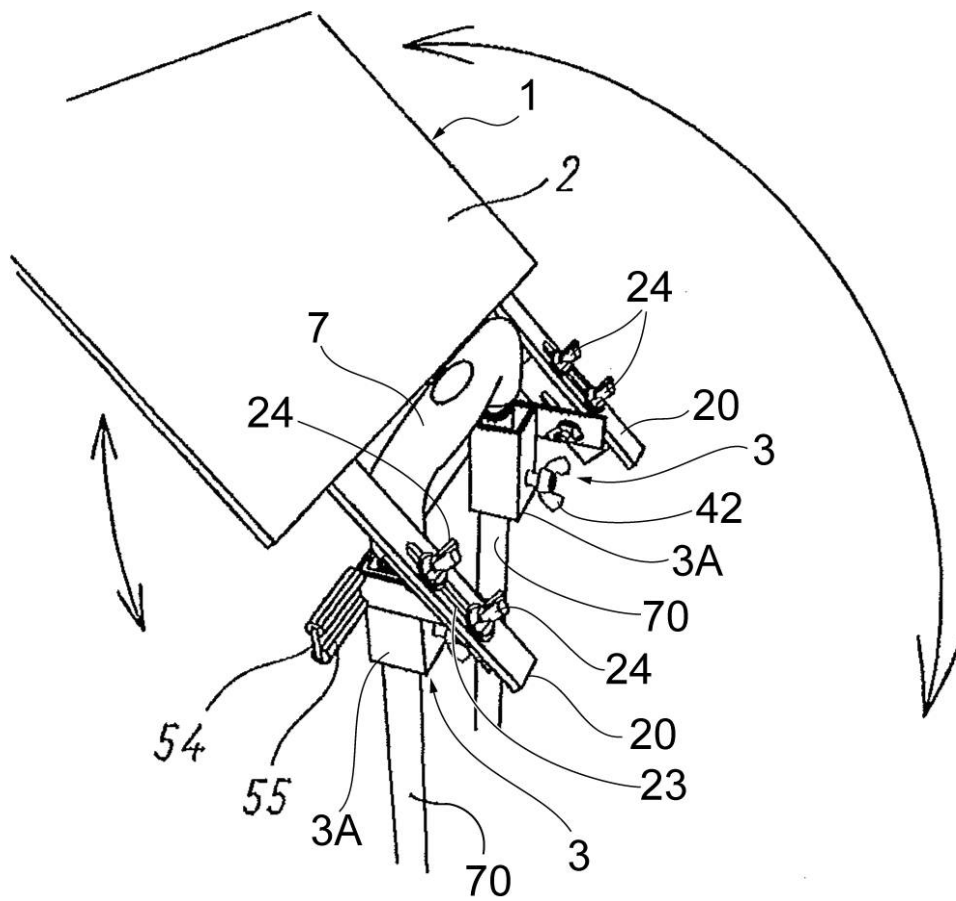
【図 6】



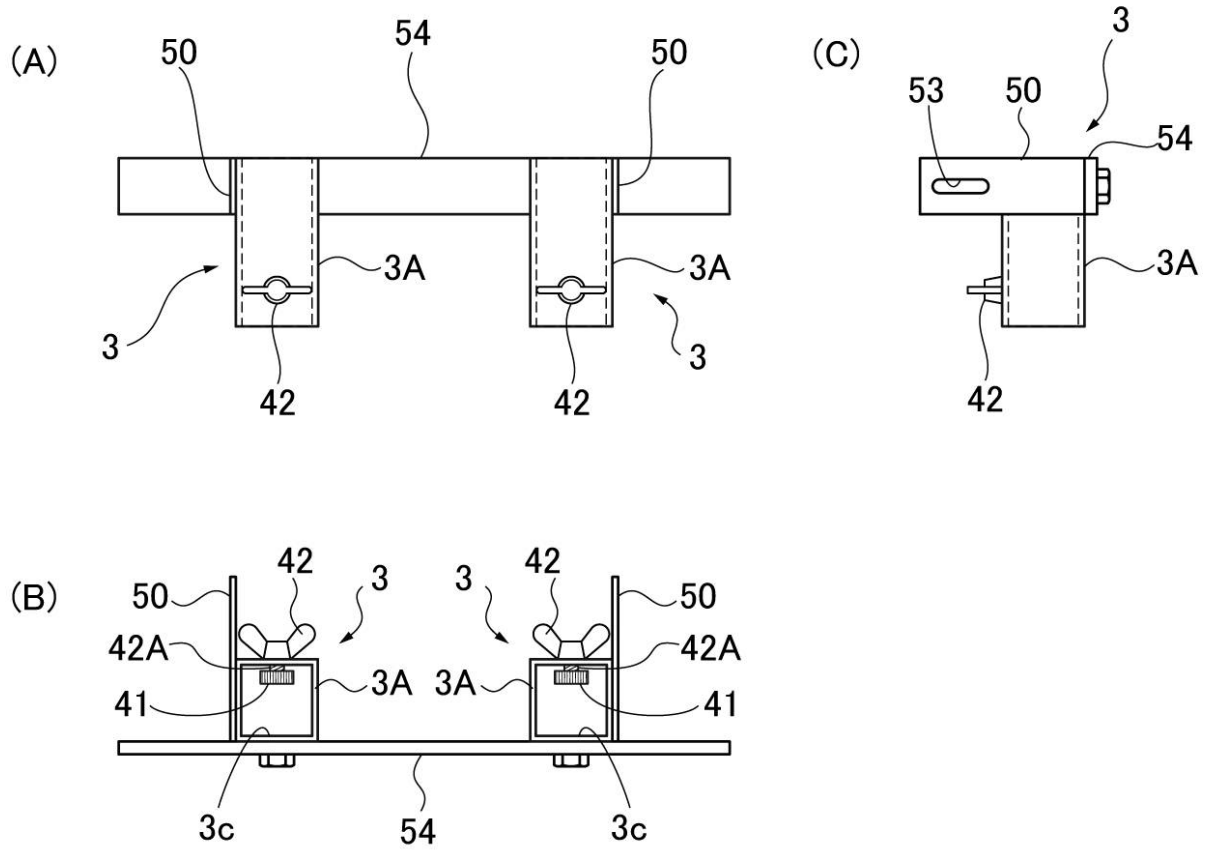
【図 7】



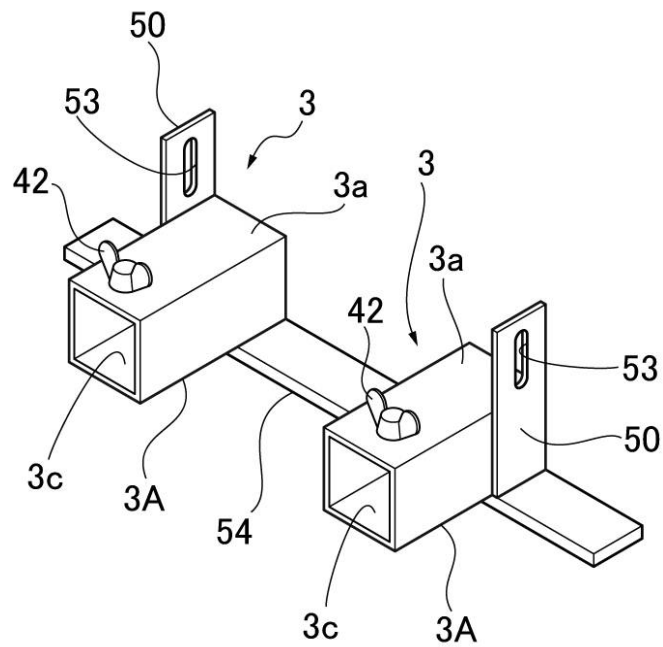
【図 8】



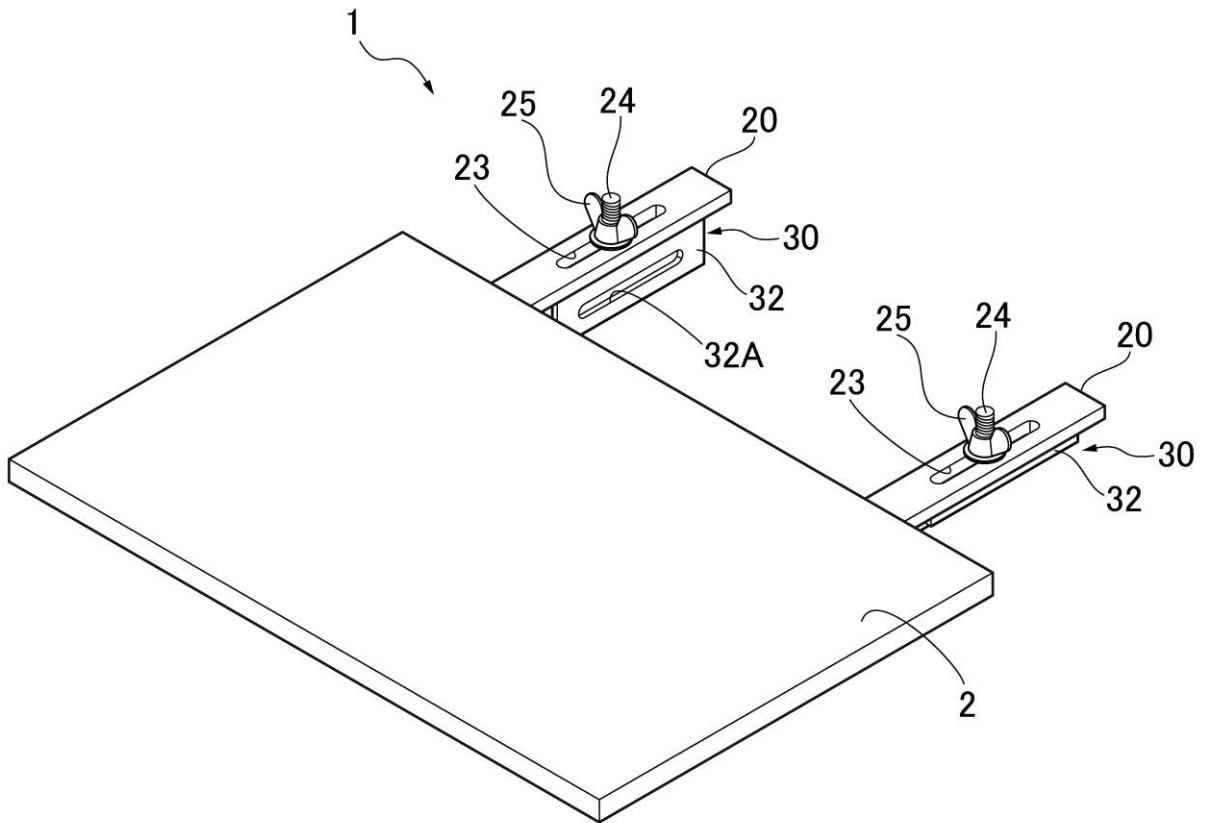
【図 9】



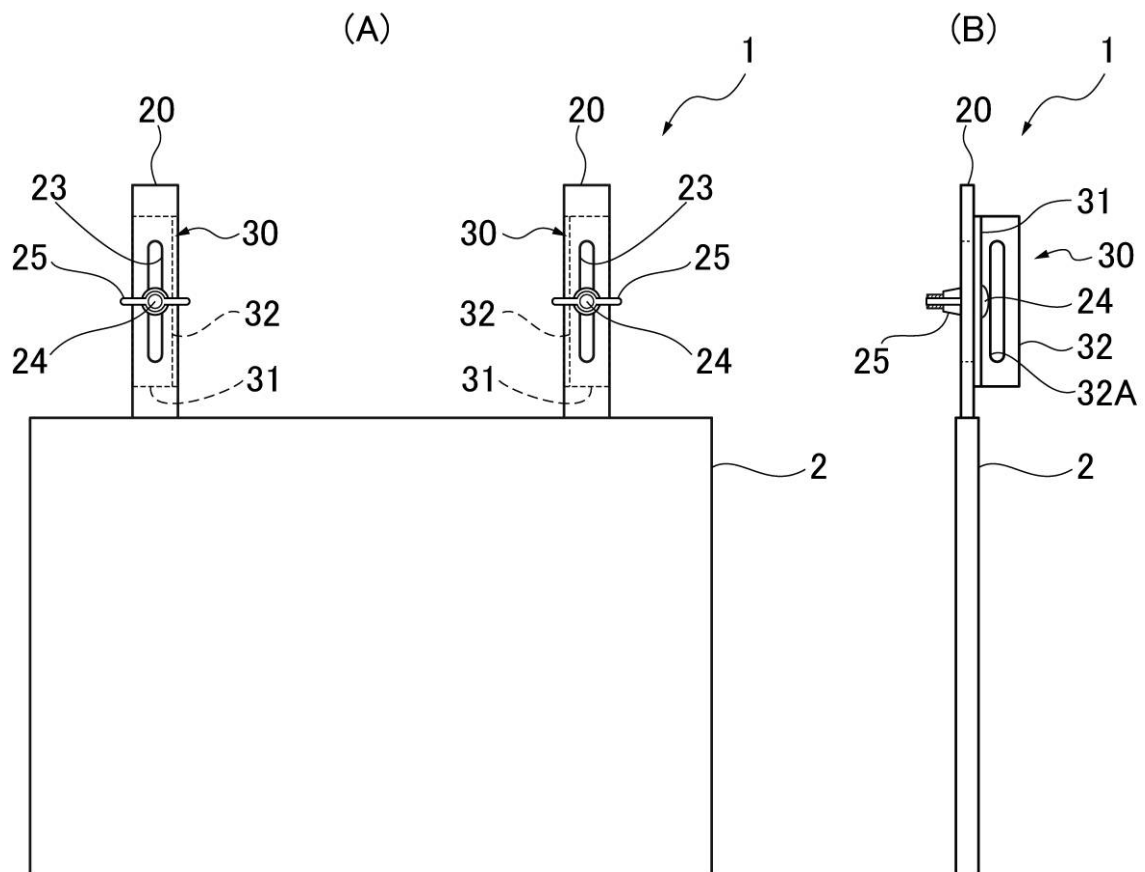
【図 10】



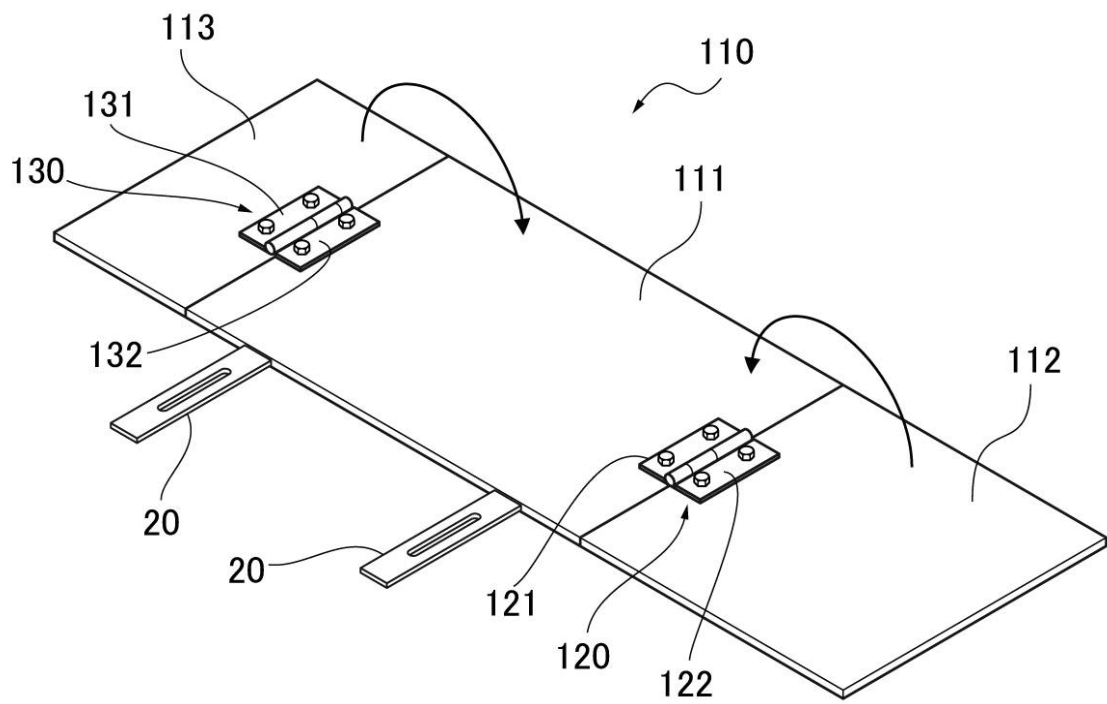
【図 1 1】



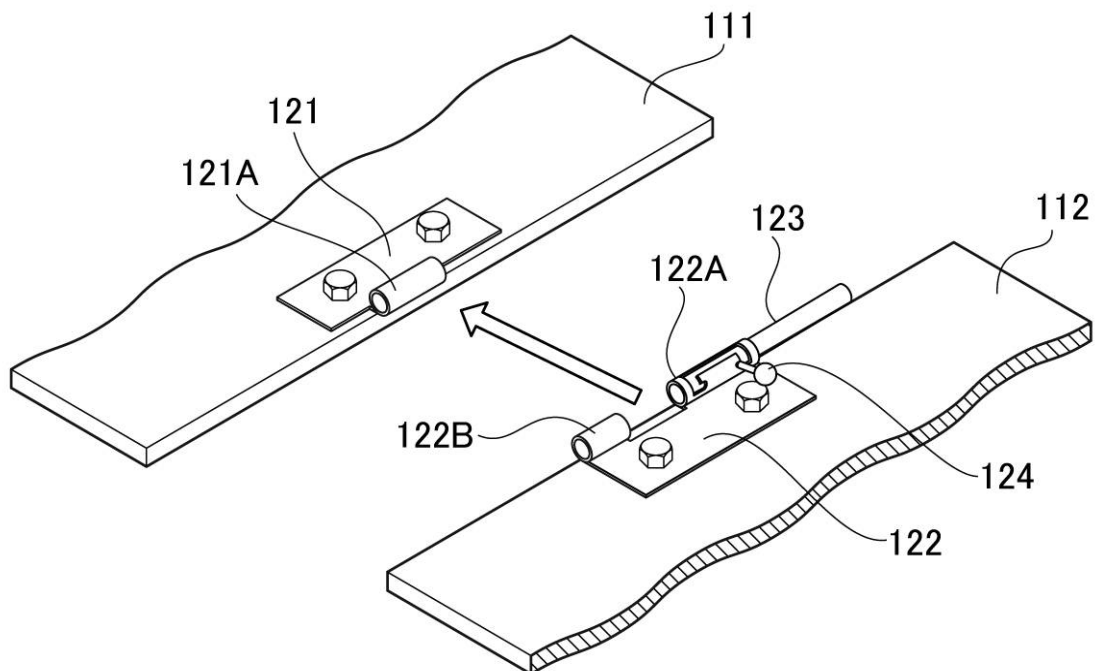
【図 1 2】



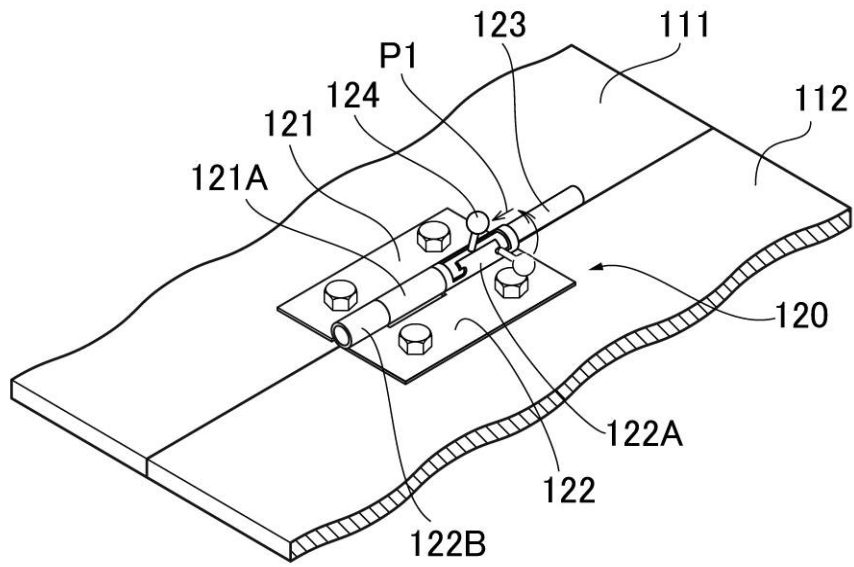
【図 14】



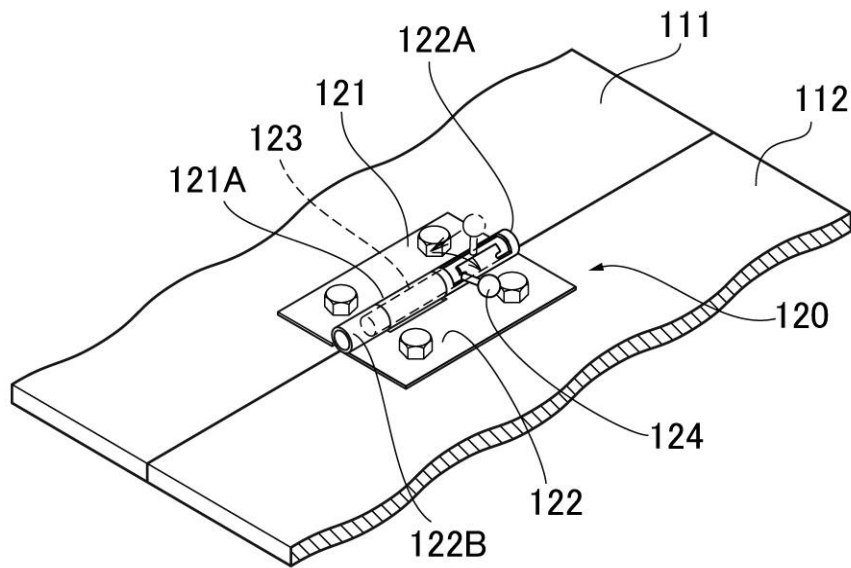
【図 15】



【図 16】

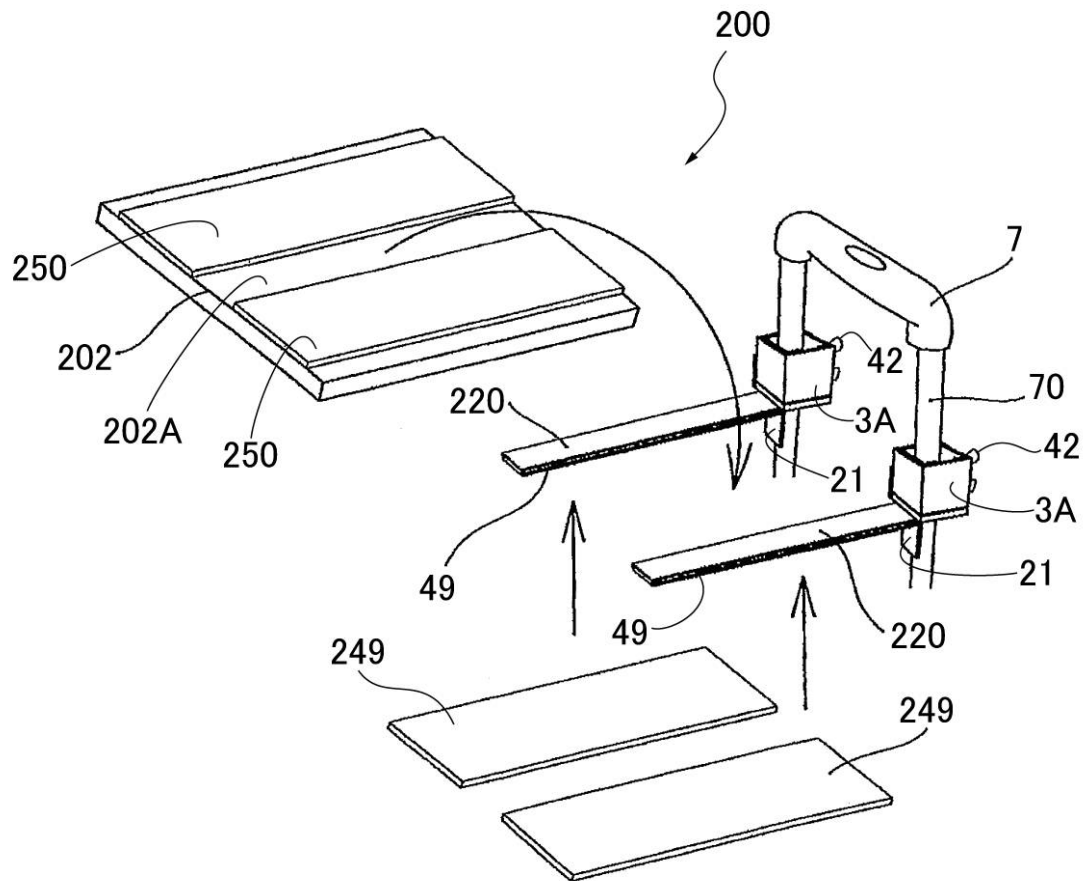


【図 17】

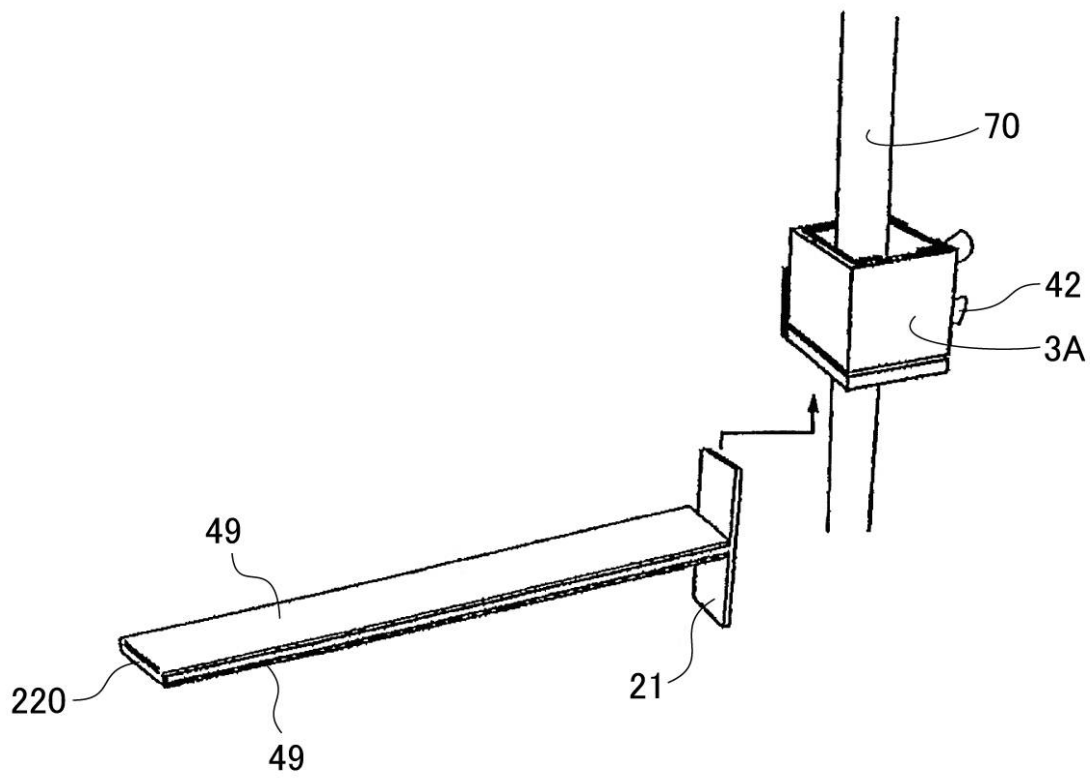


The diagram illustrates a multi-layer PCB layout. It features a central vertical strip 112, a horizontal strip 111, and a bottom horizontal strip 113. A vertical line 115 is positioned on the left side. Components are labeled as follows: 120 points to a component on the central strip 112, and 130 points to a component on the bottom strip 113. The components are represented by rectangles with internal details like circles and lines.

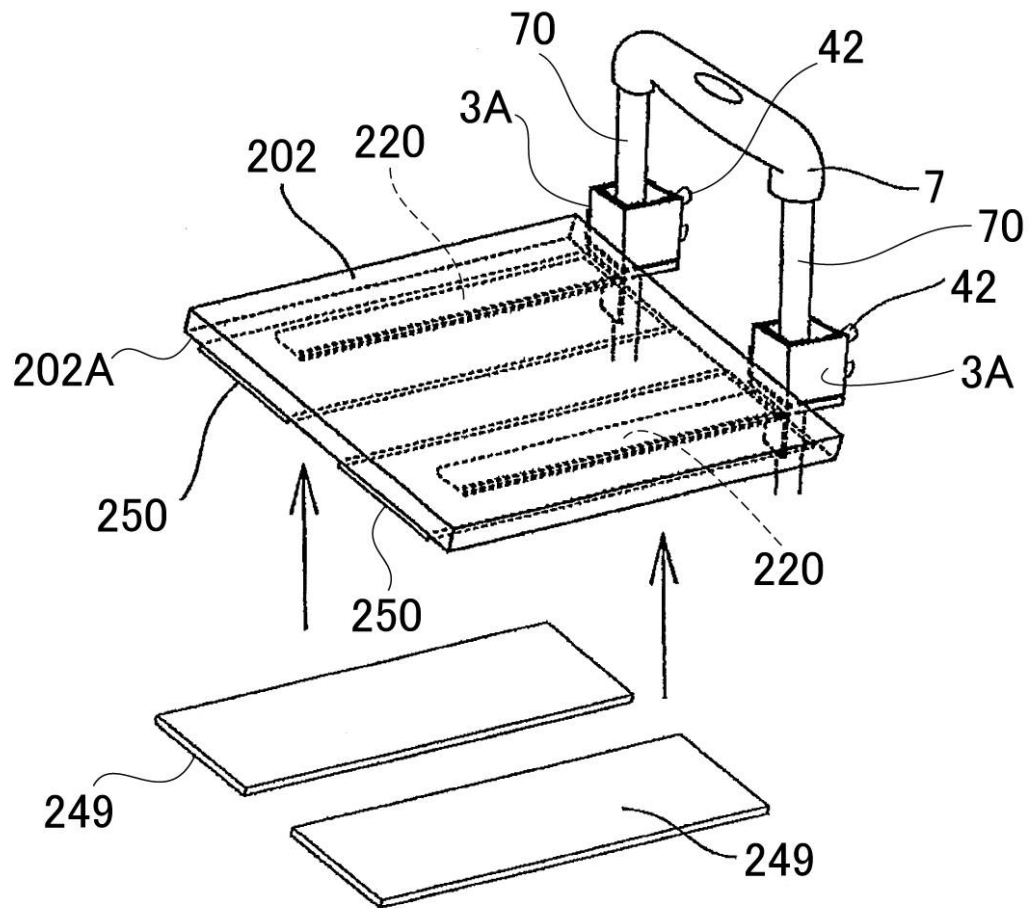
【図 19】



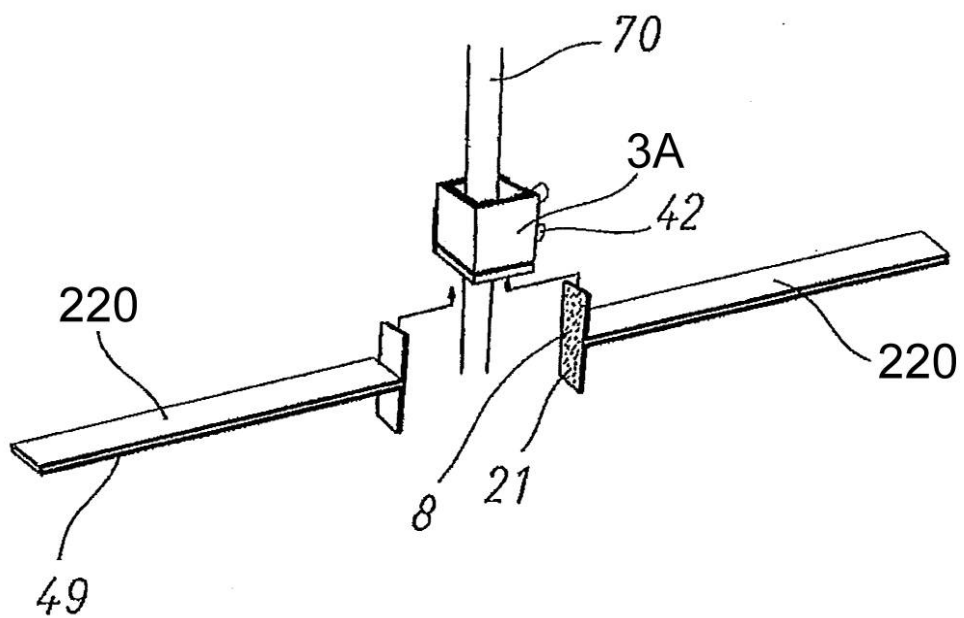
【図 20】



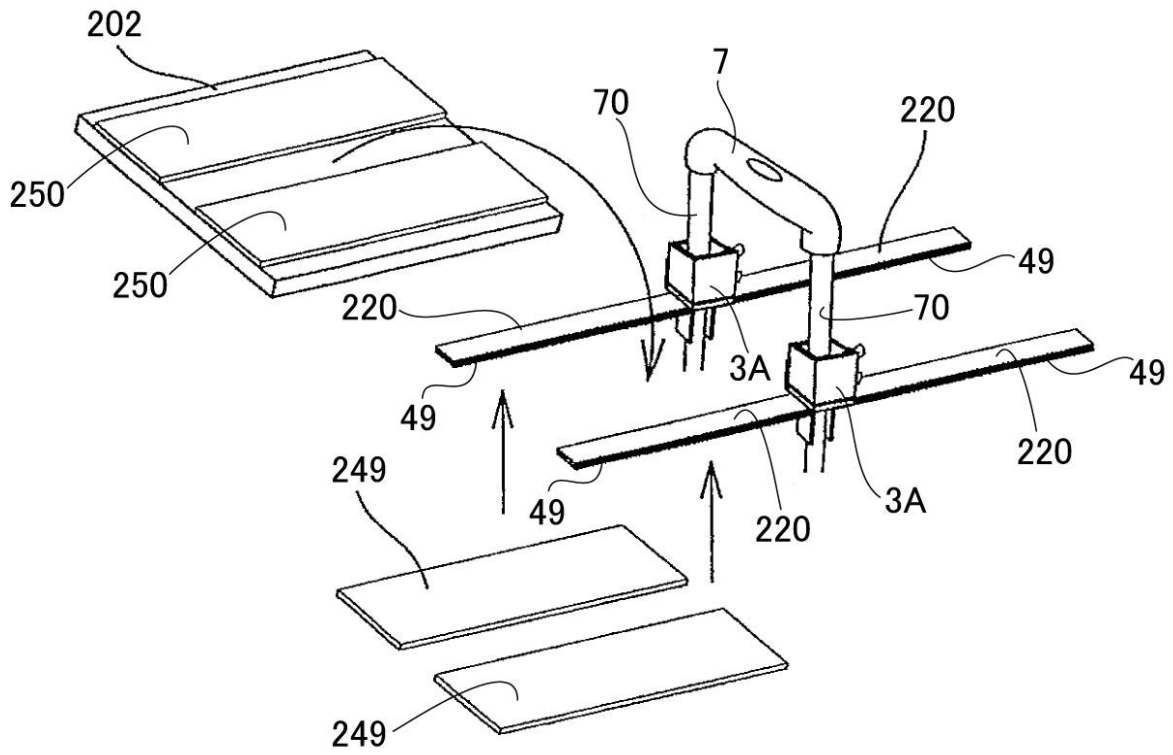
【図 2 1】



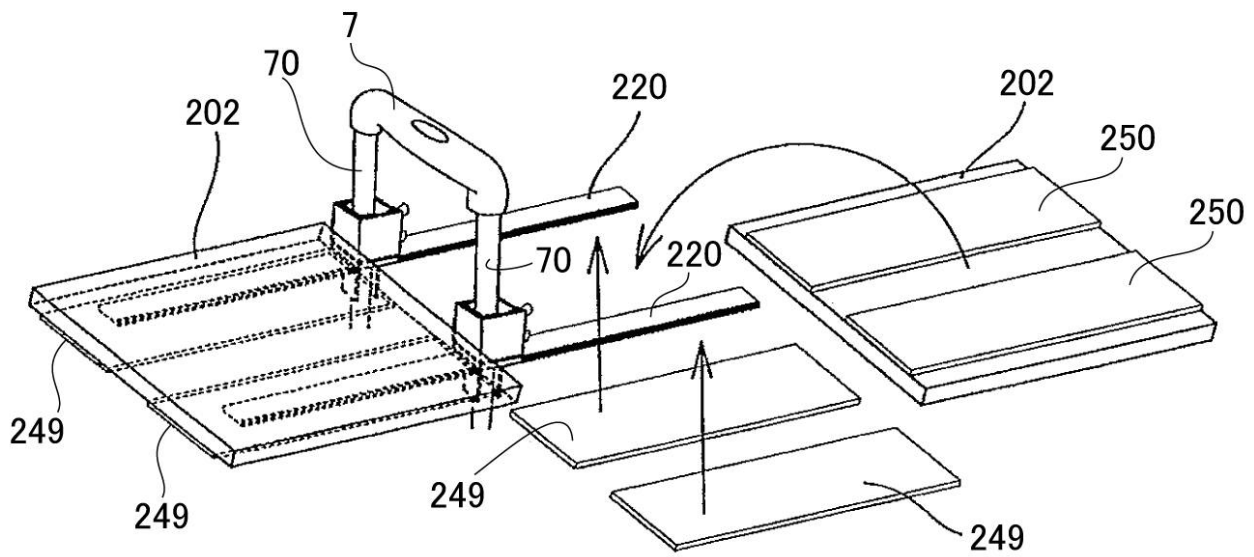
【図 2 2】



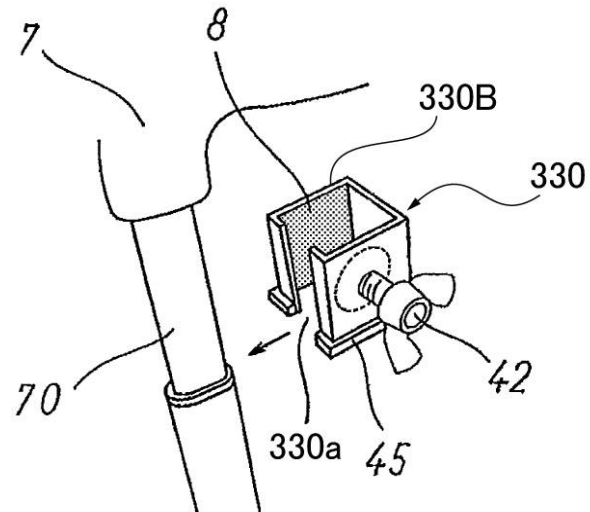
【図 2 3】



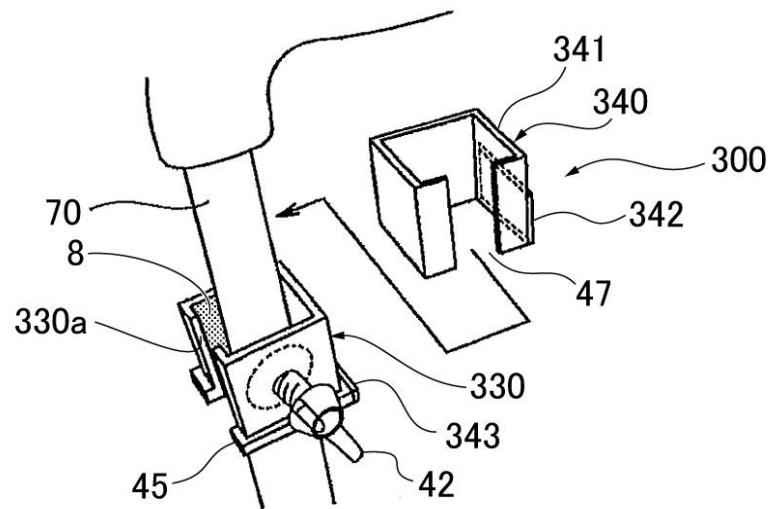
【図 2 4】



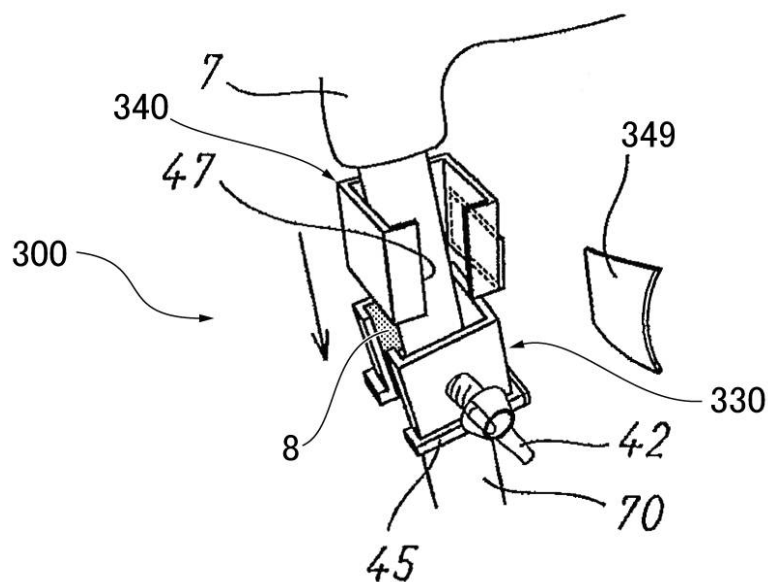
【図 25】



【図 26】

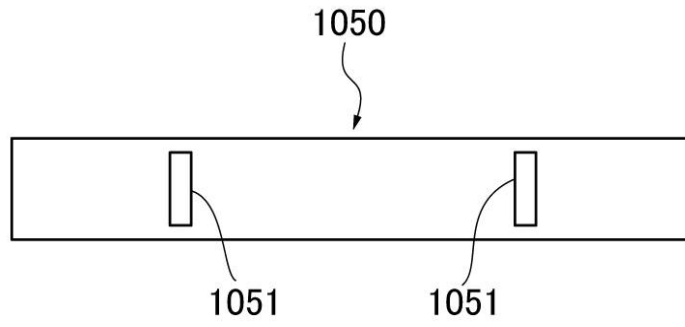


【図 27】

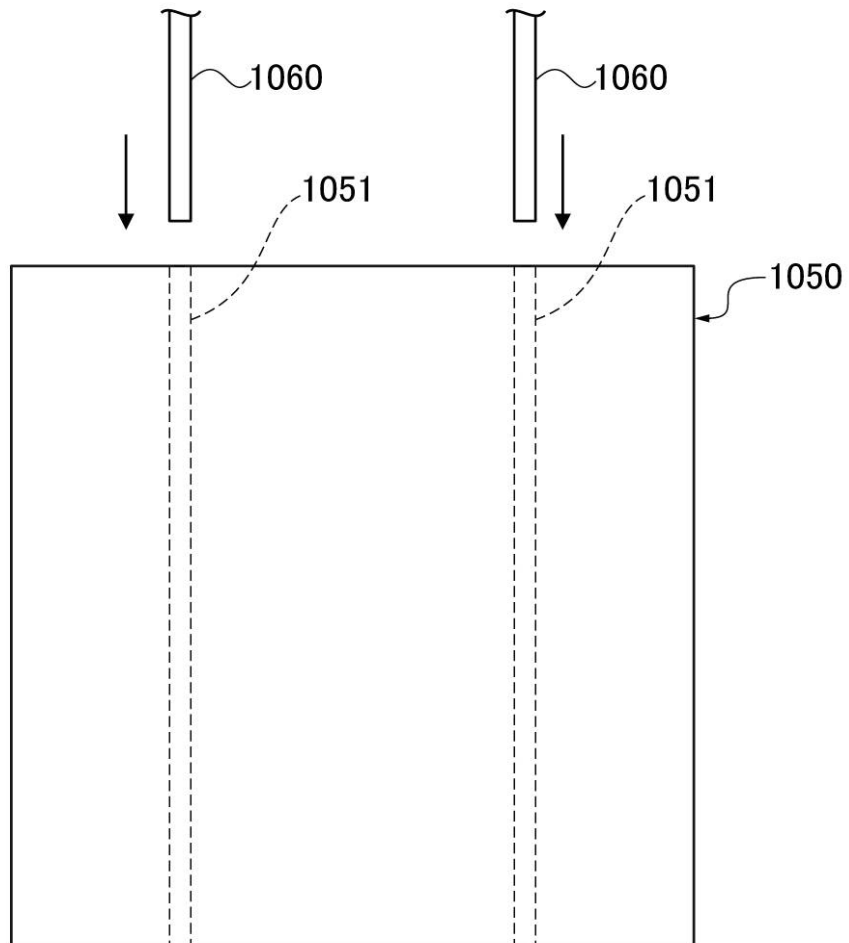


[illegible]

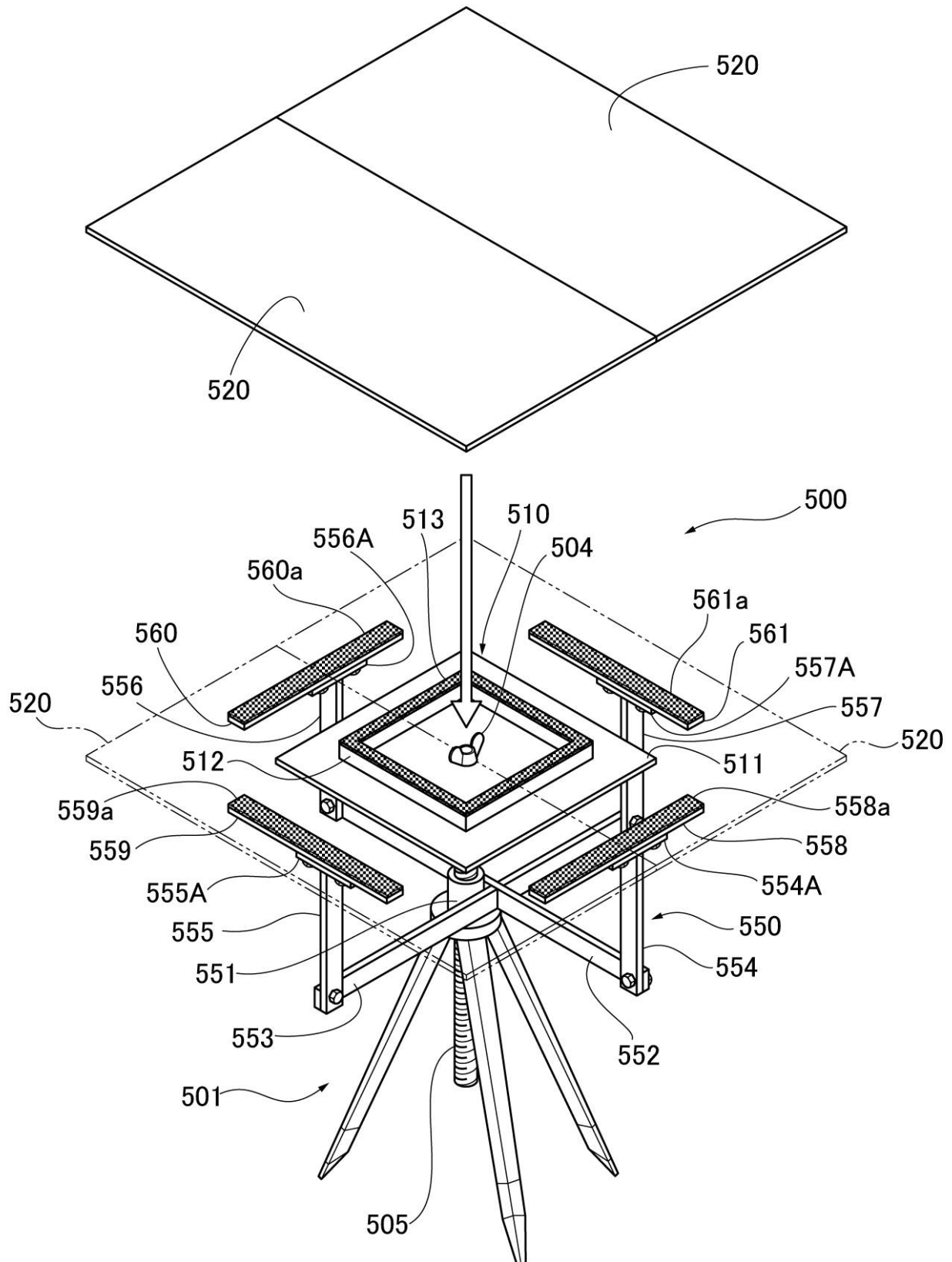
【図 27 (C)】



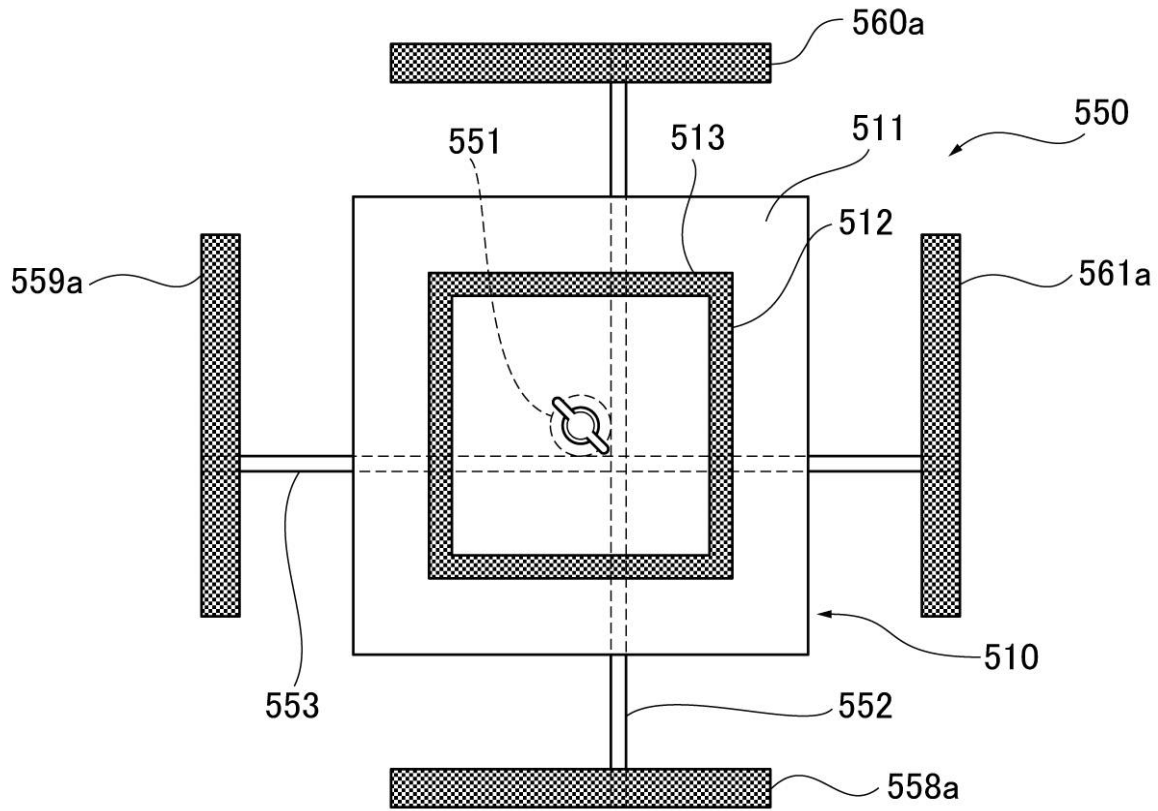
【図 27 (D)】



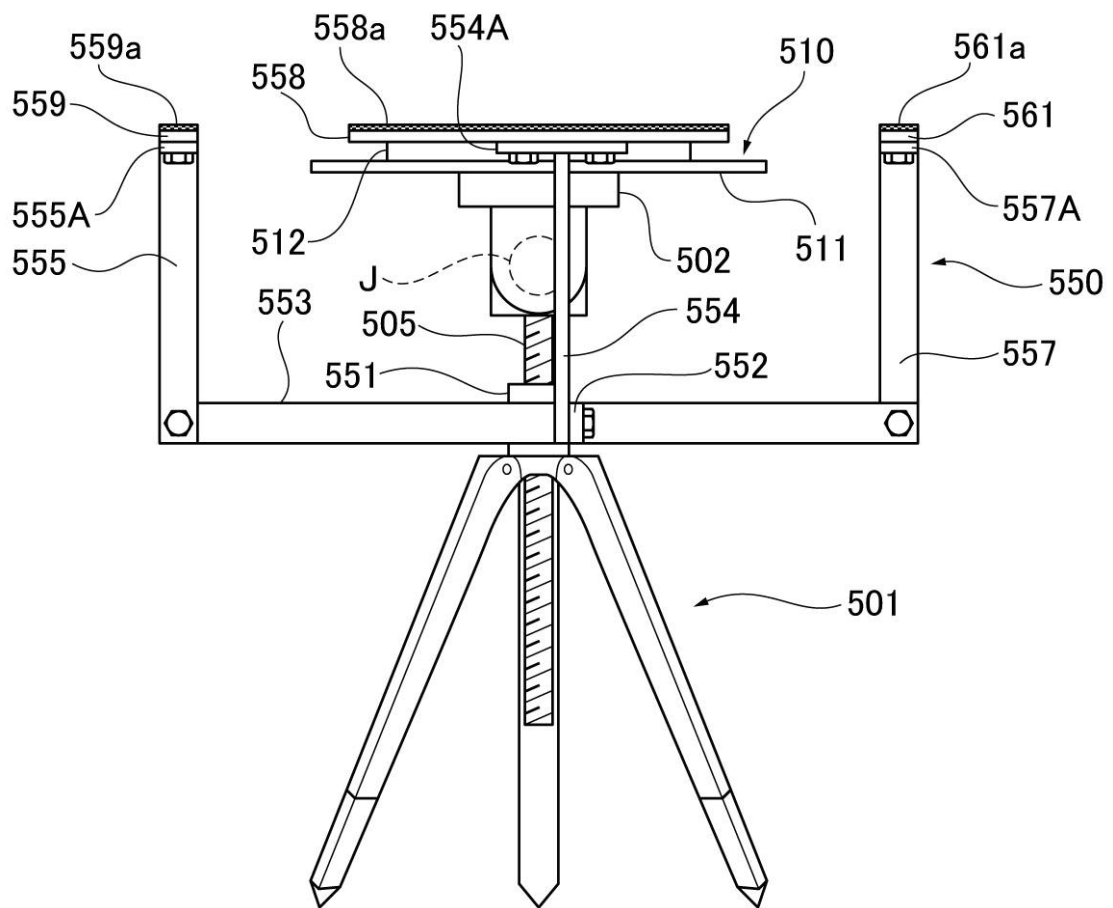
【図 28】



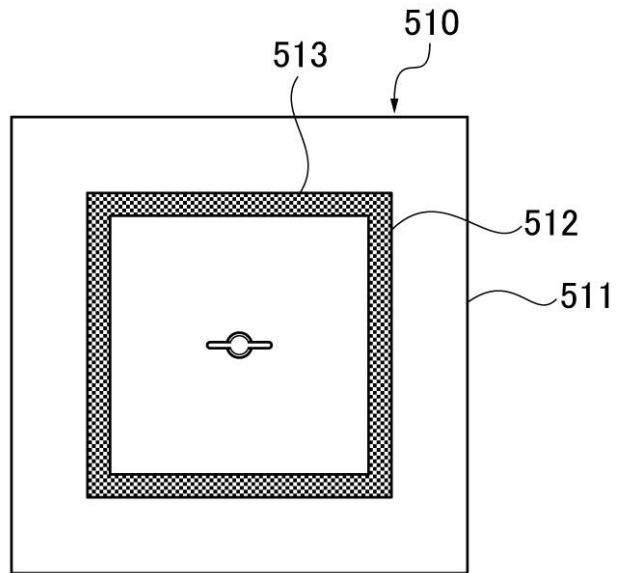
【図 29】



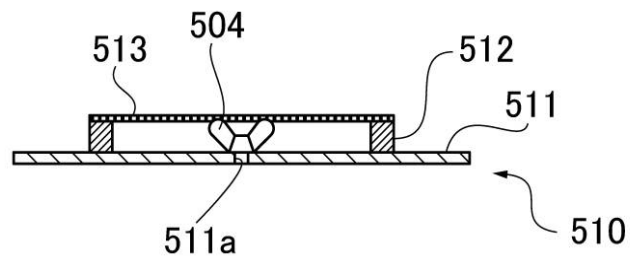
【図 30】



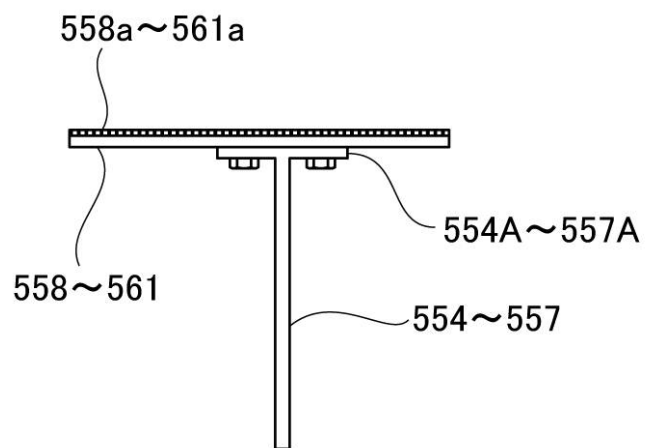
【図 3 1】



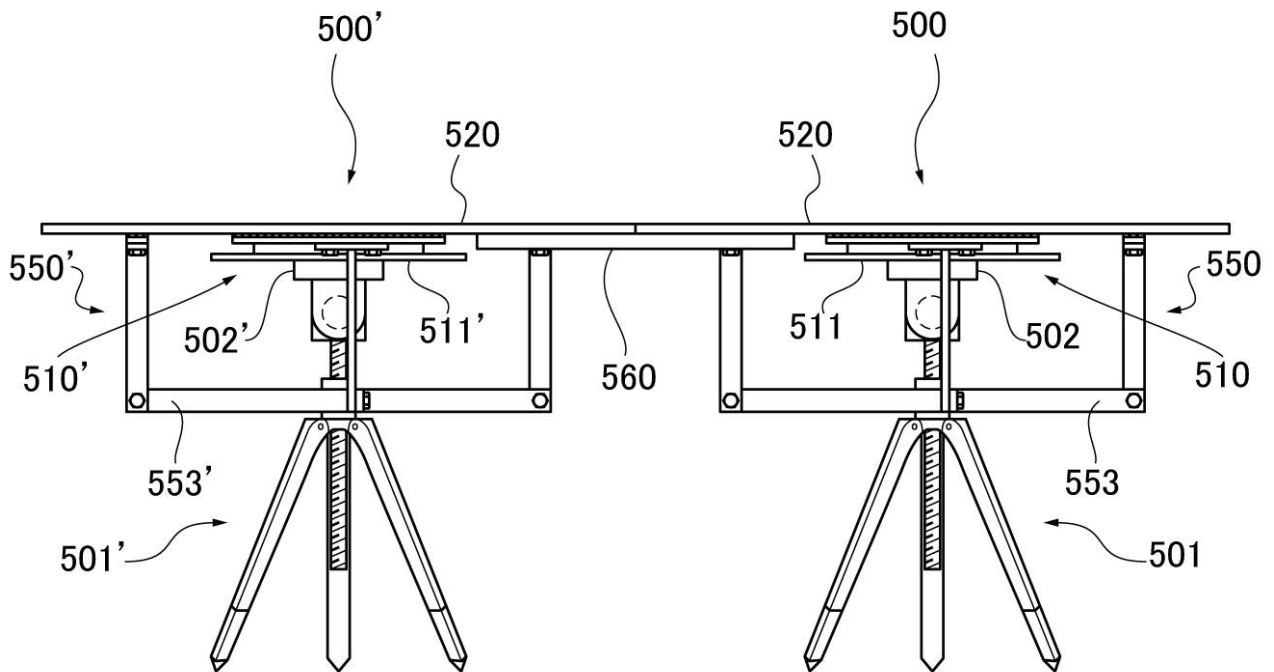
【図 3 2】



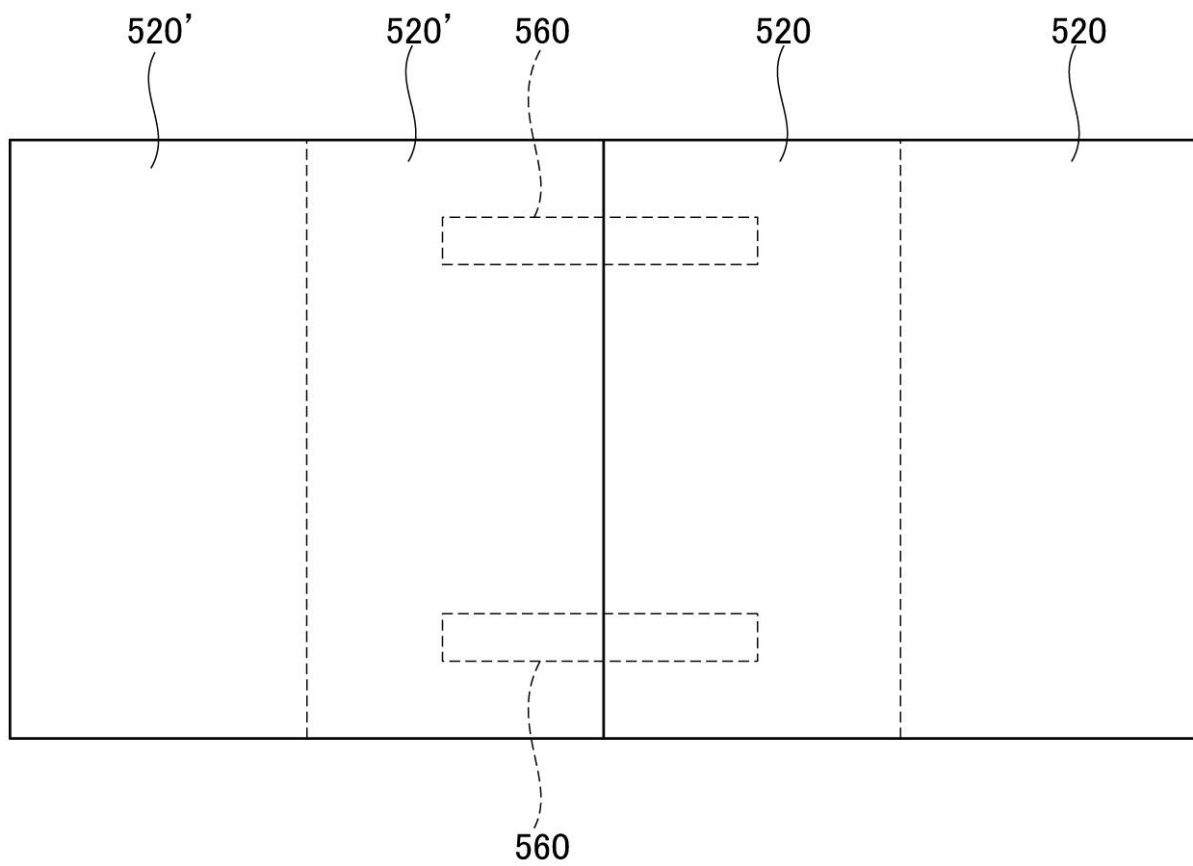
【図 3 3】



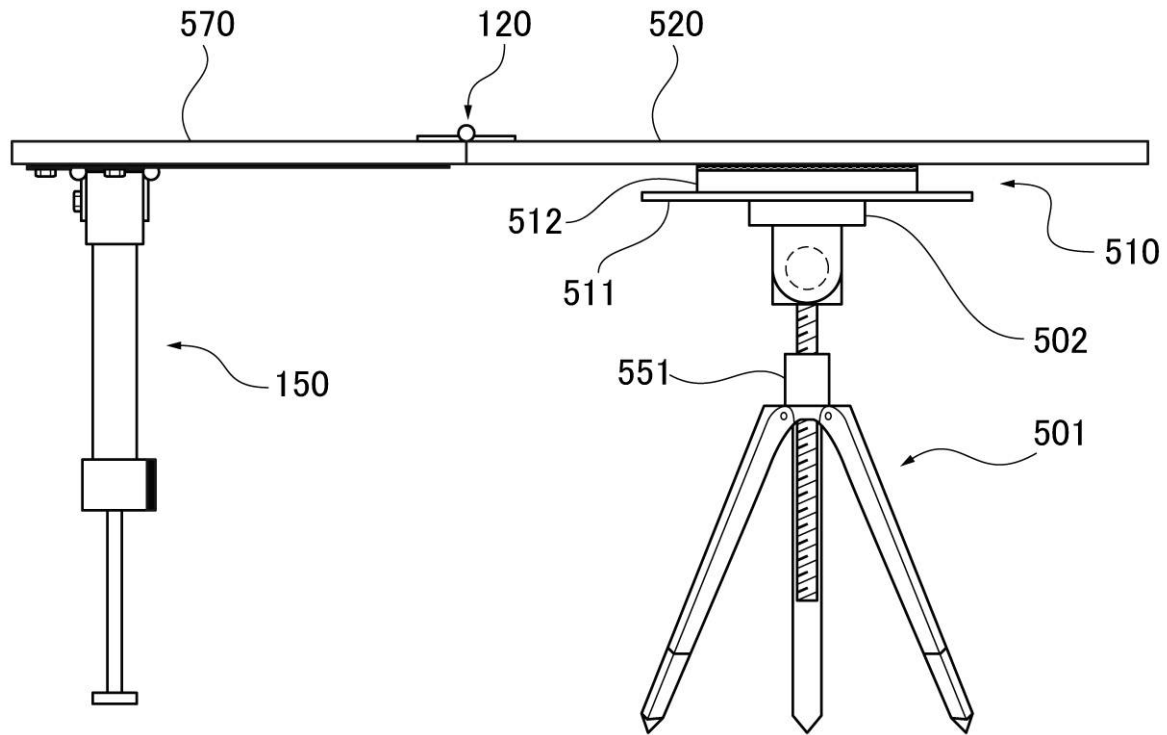
【図 3 4】



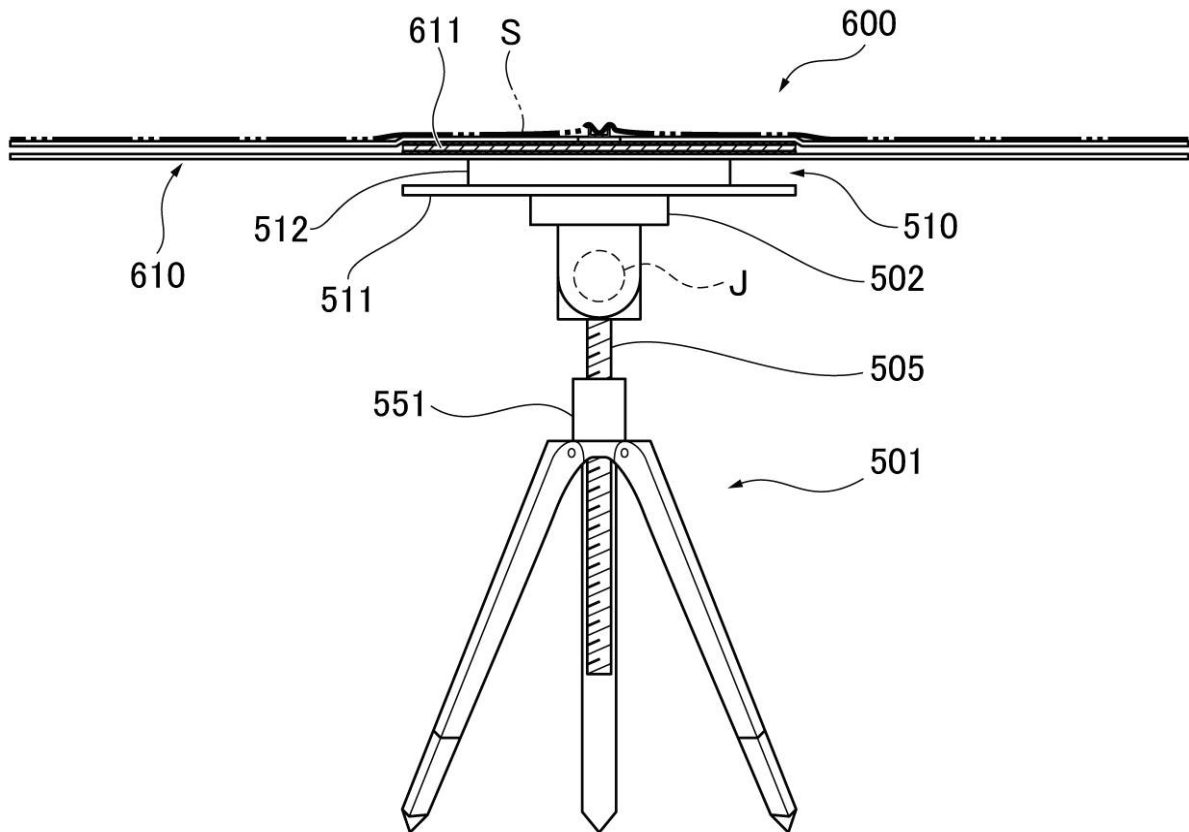
【図 3 5】



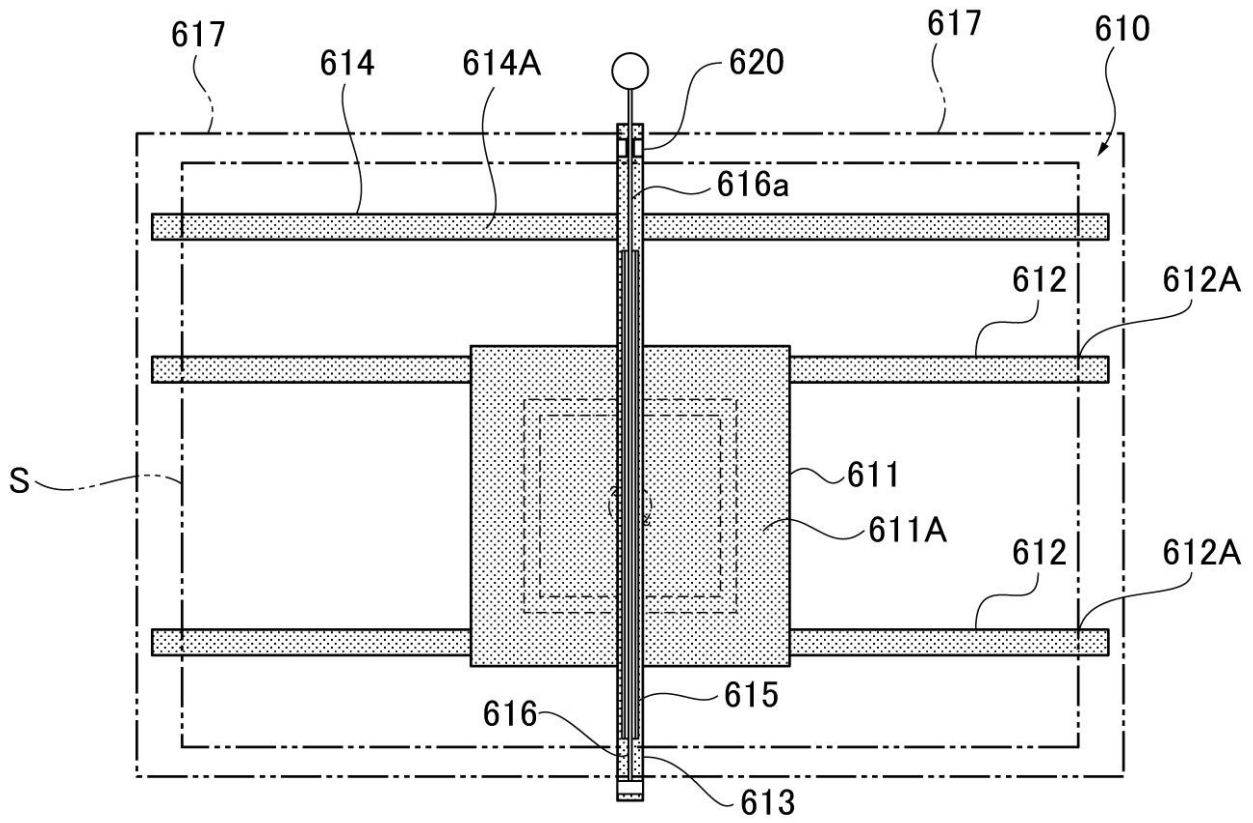
【図 3 6】



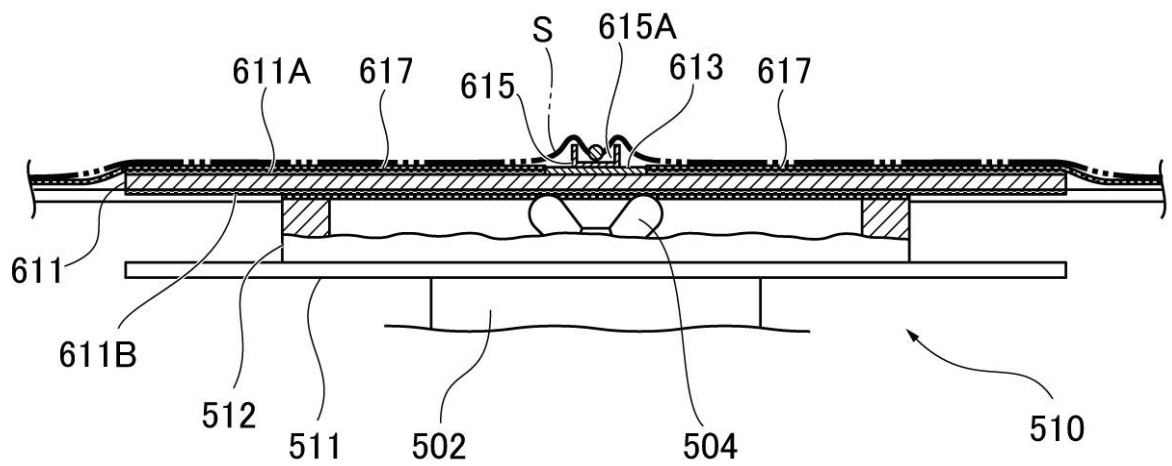
【図 3 7】



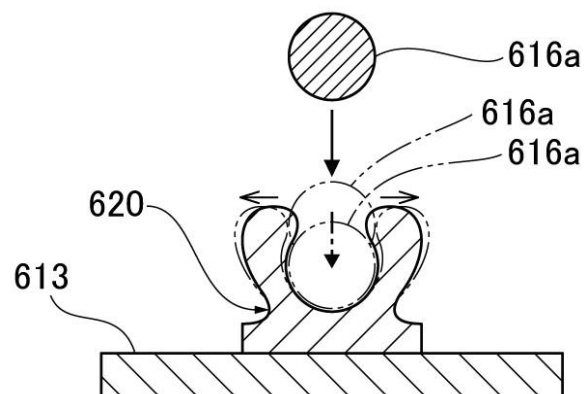
【図 38】



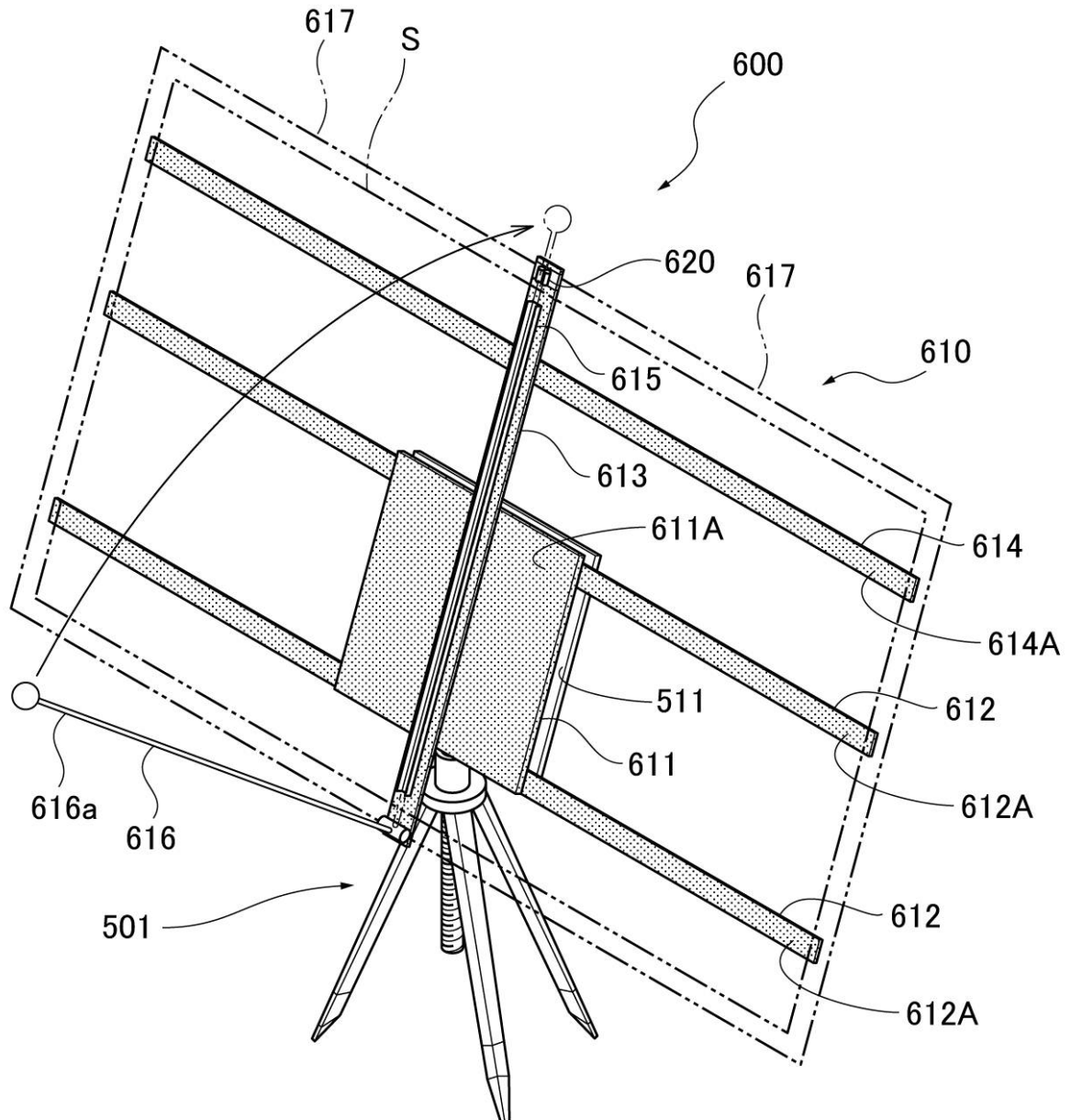
【図 39】



【図 39 A】



【図 40】



【手続補正書】

【提出日】平成24年3月12日(2012.3.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

可搬体の支柱に着脱可能に装着する装着体と、この装着体に着脱可能に取り付ける載置体とを備え、

前記装着体は、キャリーバッグのハンドル用の一対の支柱に装着される一対の筒部材であり、

前記載置体は、前記一対の筒部材に着脱可能に装着される一対のアームと、この一対のアームに取り付けられた載置板とを有し、この載置板の上に物を載せるようにしたことを特徴とする携帯用載置台。

【請求項 2】

前記一对の筒部材は上下動可能に装着されることを特徴とする請求項 1 に記載の携帯用載置台。

【請求項 3】

前記一对のアームは、アームの長手方向と直交する方向に突出した係止片を有し、この係止片を前記筒部材と支柱との間に挿入することによって前記一对のアームを装着することを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の携帯用載置台。

【請求項 4】

前記載置板の一端に補助載置板が着脱可能に取り付けられることを特徴とする請求項 1 ないし請求項 3 のいずれか 1 つに記載の携帯用載置台。

【請求項 5】

前記載置板の下面に折り畳み式の脚部を設けたことを特徴とする請求項 4 に記載の携帯用載置台。

【請求項 6】

請求項 1 ないし請求項 5 のいずれか 1 つに記載の携帯用載置台を備えたことを特徴とするキャリーバック。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

請求項 1 の発明は、可搬体の支柱に着脱可能に装着する装着体と、この装着体に着脱可能に取り付ける載置体とを備え、

前記装着体は、キャリーバッグのハンドル用の一对の支柱に装着される一对の筒部材であり、

前記載置体は、前記一对の筒部材に着脱可能に装着される一对のアームと、この一对のアームに取り付けられた載置板とを有し、この載置板の上に物を載せるようにしたことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

【図 1】この発明に係る携帯用載置台を示した斜視図である。

【図 2】図 1 に示す携帯用載置台を適用するキャリーバッグを示した斜視図である。

【図 3】携帯用載置台を取り付けたキャリーバッグを示した斜視図である。

【図 4】携帯用載置台の使用状態を示した斜視図である。

【図 5】載置板の回動方向を示す説明図である。

【図 6】載置板のスライド移動方向と回動方向を示す説明図である。

【図 7】載置板の使用状態を示した説明図である。

【図 8】載置板をハンドルを越えて回動移動させる状態を示した説明図である。

【図 9】（A）は連結板に取り付けられた筒部材を示した正面図、（B）はその平面図、（C）はその側面図である。

【図 10】図 9（A）の連結板と筒部材を示した斜視図である。

【図 11】載置体を示した斜視図である。

【図 12】（A）は図 11 の平面図、（B）はその側面図である。

【図 13】載置体を連結板の筒部材に装着した状態を示した斜視図である。

【図 14】第 2 実施例の載置板を示した斜視図である。

【図 1 5】主載置板に補助載置板を着脱可能に装着されることを示す説明図である。

【図 1 6】補助載置板の装着の仕方を示す説明図である。

【図 1 7】主載置板に補助載置板を装着した状態を示した説明図である。

【図 1 8】主載置板の下面に取り付けた脚部を示した説明図である。

【図 1 8 A】第 2 実施例の他の例の別な例を示す説明図である。

【図 1 9】第 3 実施例の携帯用載置台を示す斜視図である。

【図 2 0】アームの取り付け方を示す説明図である。

【図 2 1】載置板のアームへの固定の仕方を示した説明図である。

【図 2 2】第 3 実施例の他の例のアームの取り付け方を示した説明図である。

【図 2 3】第 3 実施例の他の例の一方のアームに載置板を取り付ける状態を示した説明図である。

【図 2 4】第 3 実施例の他の例の他方のアームに載置板を取り付ける状態を示した説明図である。

【図 2 5】第 4 実施例の筒部材と支柱を示した斜視図である。

【図 2 6】第 4 実施例の装着金具を示した斜視図である。

【図 2 7】図 2 6 の装着金具の支柱への取付方を示した斜視図である。

【図 2 7 (A)】他の例の装着部材を示した斜視図である。

【図 2 7 (B)】図 2 7 (A) に示す装着部材の平面図である。

【図 2 7 (C)】載置板の正面図である。

【図 2 7 (D)】載置板の平面図である。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

また、この例によれば、面ファスナーも不要となるので、部品点数の少ない携帯用載置台を提供することができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0054

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0055

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0057

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 5 8
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 0】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 5 9
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 1】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 6 0
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 2】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 6 1
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 3】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 6 2
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 4】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 6 3
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 5】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 6 4
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 6】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 6 5
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 7】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 6 6
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 8】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 6 7
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 9】
【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 6 8
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 0】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 6 9
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 1】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 7 0
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 2】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 7 1
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 3】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 7 2
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 4】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 7 3
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 5】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 7 4
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 6】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 7 5
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 7】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 7 6
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 8】
【補正対象書類名】 図面
【補正対象項目名】 図 2 8
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 9】
【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】図 2 9
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 3 0】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図 3 0
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 3 1】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図 3 1
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 3 2】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図 3 2
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 3 3】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図 3 3
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 3 4】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図 3 4
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 3 5】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図 3 5
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 3 6】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図 3 6
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 3 7】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図 3 7
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 3 8】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図 3 8
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 3 9】
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3 9

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4 0】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3 9 A

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4 1】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 4 0

【補正方法】削除

【補正の内容】

フロントページの続き

(51)Int.Cl.

F I

テーマコード (参考)

G 0 3 B 17/56

B